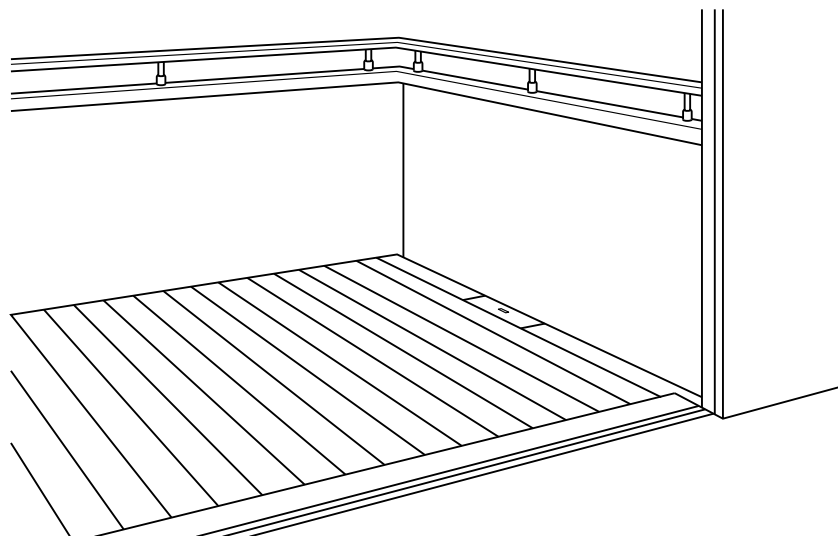


人工木デッキ ベランダ仕様

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。

■重要

P.4のチェックリストを使用して、
施工上の重要なポイントが守られて
いることを確認してください。



■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

安全に関する記号と説明

-  **警告** ・ 取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。
-  **注意** ・ 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示します。

情報に関する記号と説明

-  **お願い** ・ 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
・ 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。
-  **補足** ・ 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

ねじ等の締結部品の記号

ねじやナット等の締結部品を記号で示してます。(例：1a、1b、2c等)
締結部品の種類は「 **梱包明細表** 」を参照してください。

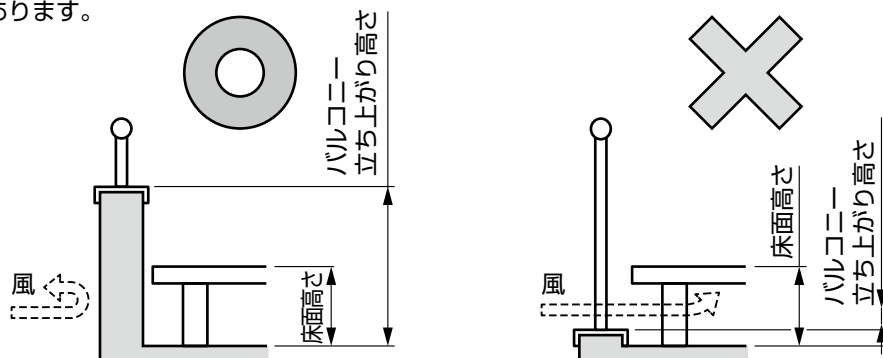
■ 施工の前に

！ 警告

- 本製品は、床面から手すりまでの高さが1100mm未満になる場合は取付けしないでください。人が転落するおそれがあります。

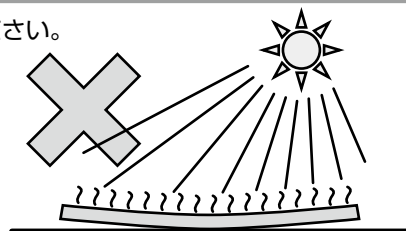
！ 注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 本製品は1800N/m仕様です。施工場所の必要強度をご確認の上、施工を行ってください。
- 戸建て住宅または高層マンションの10F以下のバルコニーに設置してください。11F以上には設置しないでください。
- 施工可能なバルコニー床面は、ウレタン防水層、FRP防水層です。シート防水層には施工しないでください。
- 防水層が劣化している場合は、防水層を施工した業者に問題がないことを確認してください。
- 間口側と側面側すべてのバルコニー立ち上がり高さよりも、床面高さが高くなる場所には取り付けしないでください。強風時の吹き上げにより本商品が飛散するおそれがあります。



💡 お願い

- 保管時・施工時の部材の反り・曲がり・伸び等の防止のため、以下の事項を守ってください。
 - ・直射日光を避けて保管してください。
 - ・平らな場所に保管してください。立てかけて保管しないでください。
 - ・暖房機や焚き火近くの高温になる場所には保管しないでください。
 - ・製品上に重量物を長時間重ね置きしないでください。
- 設置場所を確認してください。
 - ・浴室、プール等の常時水のかかる場所には設置しないでください。製品の特性上、適していません。
 - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。熱排気による部材の変形・劣化の原因になります。
 - ・長期間重量物をのせたままにしないでください。デッキの変形や色が周囲と変わる場合があります。
 - ・母屋の屋根等から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により製品が破損することがあります。
 - ・階下への避難口、避難ハッチなどの上には取付けしないでください。避難口、避難ハッチなどが使用できなくなることがあります。
 - ・マンションなどの集合住宅は、バルコニー排水溝や排水口を共有している場合があります。そのような場合は、排水溝や排水口には取付けしないでください。
- 人工木は表面に研磨加工処理を施してありますので、床板の施工方向によっては色調に濃淡が出ます。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 樹ラ楽 木彫・プレーンタイプ、DCに市販の研磨紙を利用する際は、60～80番の研磨紙を用いてください。デッキDSには60番のナイロン不織布を用いてください。
- 取付ける部材によって施工手順が変わる場合があります。施工内容を十分確認してください。
- 施工プランと必要部材が揃っているか確認してください。



■ 施工上のご注意

⚠ 注意

- 支持台の移動範囲は弊社指定範囲にしてください。
- 製品の強度低下、またはケガのおそれがありますので、ボルト、ねじは弊社純正品の規定本数を使い、下記の推奨締付けトルクで固定した後にゆるみがないか確認してください。
φ4ねじ：1.5N・m φ5ねじ：3.0N・m φ6ねじ：5.2N・m
人工木素材へ固定の場合
φ4：1.0N・m
人工木素材にねじ固定する場合は、手締めで施工してください。
- みだりに改造・変更をしないでください。
- 当社指定の付属品以外は取付けないでください。
- 組立てねじ、ボルトは必ず指定のものを使用してください。また、使用中ゆるまないように締付けてください。
- タッピングねじの下穴は、指定より太いドリルを使用しないでください。
- 取付け前には下地床面のゴミや砂を必ず取除いてください。防水層をキズ付け、雨漏れの原因になります。
- バルコニー上で切断や加工をする際はコンパネなどを敷き、床面にキズが付かないように作業してください。バルコニー床面にキズを付けますと漏水の原因となることがあります。

💡 お願い

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・ 作業服および保護具(保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具)を正しく使用してください。
 - ・ 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・ 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・ 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・ 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
 - ・ 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 施工中についた表面すりキズは、引き渡し前に研磨紙またはナイロン不織布で補修してください。表面研磨する場合は、研磨してある方向に沿って行なってください。
- 施工中についた表面の汚れやシミは、引き渡し前に水洗いをしてください。中性洗剤を薄めたものを使用した場合は、よく水洗いをしてください。

✎ 補足

- 本書では、樹ら楽 柱目・ブレーションタイプの縦張りを基本とした施工方法を説明しています。

チェックリスト

※下記項目は重要事項ですので必ず点検してください。

No.	ページ	チェック内容	
1	13	支持台（補助台）と防水層の接着剤は正しく塗布されていますか。	☐
2	14 17	床板と躯体のすき間、床板連結部のすき間は指定の間隔で取り付けましたか。	☐
3	14	床板の向きを調整して配置することで、自然な仕上がりを出しましたか。	☐
4	26 29	床板固定部品のねじにゆるみがないですか。	☐
5	17	床板の連結は大引上の中心になっていますか。	☐
6	27	点検口を取付ける場合の跳ね上がり防止部品は正しく取り付けられていますか。	☐

目次

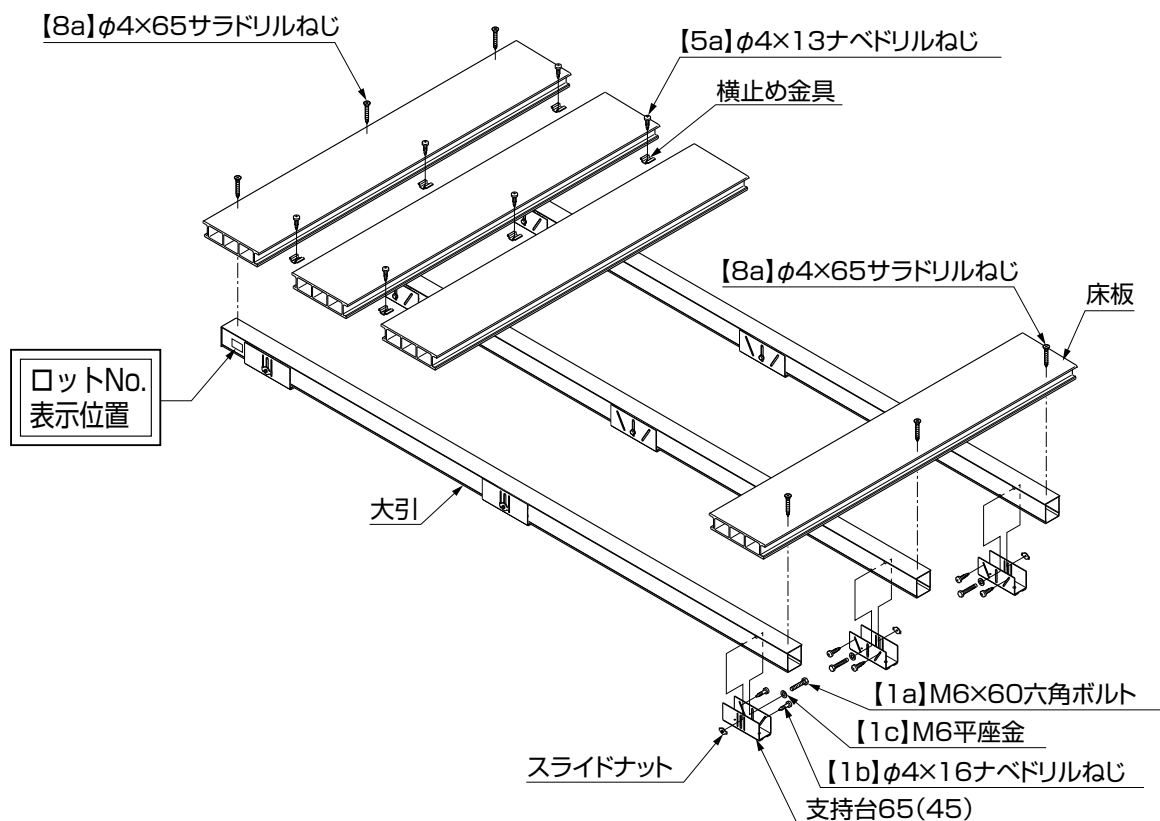
1 基本寸法と各部名称	5	4 施工後の補修	35
1-1 各部名称	5	4-1 床板の補修	35
1-2 詳細納まり	6	梱包明細表	36
1-3 基本寸法	9		
2 大引の取付け	11		
2-1 大引の加工	11		
2-2 補助台40(20)を取付ける場合	11		
2-3 大引の取付け	12		
2-4 大引を連結する場合	13		
2-5 支持台の接着	13		
3 床板の施工	14		
3-1 床板の取付け	14		
3-2 床板を縦連結する場合	17		
3-3 床板を縦切りする場合	18		
3-4 隅切り施工をする場合の納まり確認	20		
3-5 幅調整材の取付け	20		
3-6 点検口の取付け	21		
3-7 グレーチングの取付け	31		
3-8 大引キャップの取付け	32		
3-9 床板キャップの取付け	32		
3-10 ノンレールサッシ納め部材の取付け	34		
3-11 躯体側隙間塞ぎ材の施工	34		

1 基本寸法と各部名称

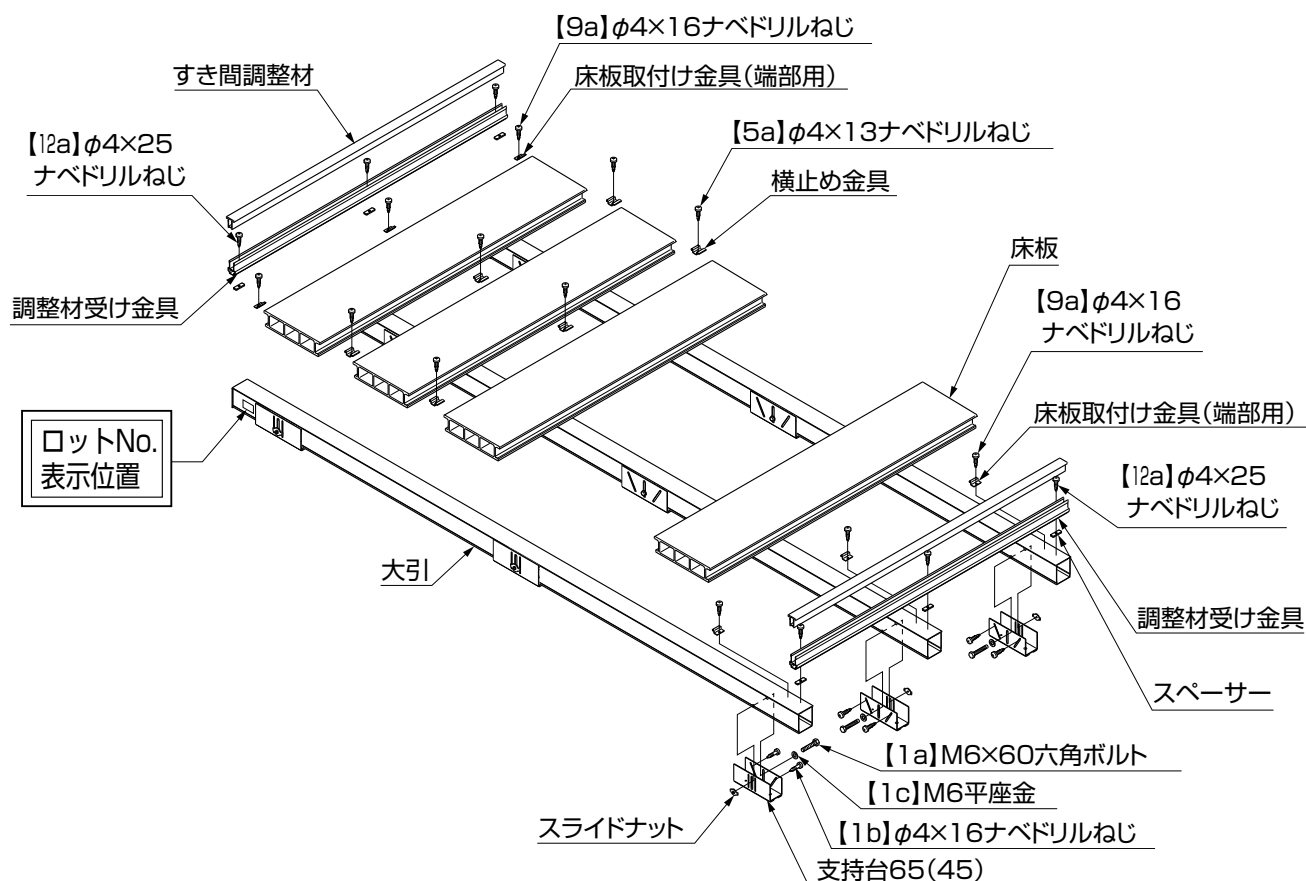
1-1 各部名称

床板(樹ら楽 柃目・プレーンタイプ)縦張り

▼ 端部床板上止めの場合 ▼



▼ 端部幅調整材の場合 ▼

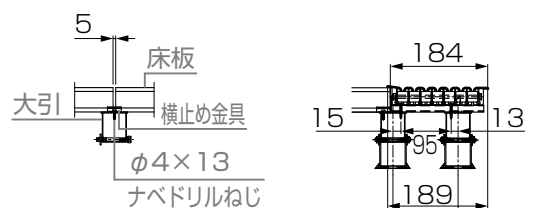
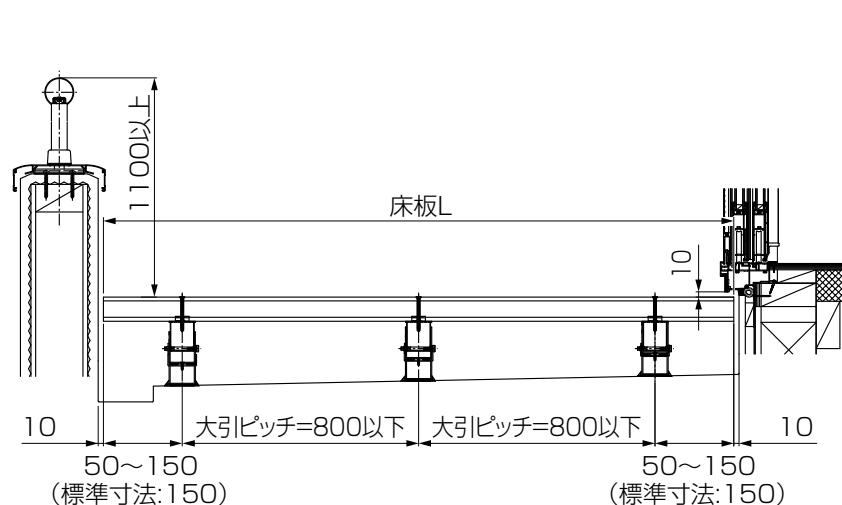


1 基本寸法と各部名称

基本寸法と各部名称

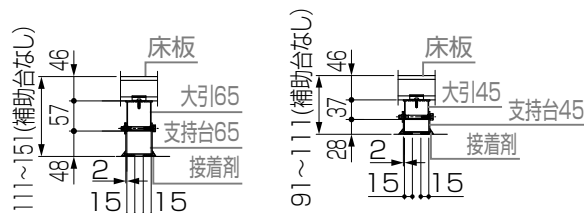
1-2 詳細納まり

1-2-1 縦張り 縦断面図



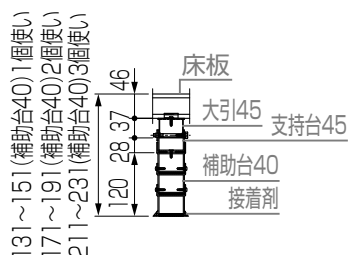
床板を連結する場合

グレーチングを使用した場合

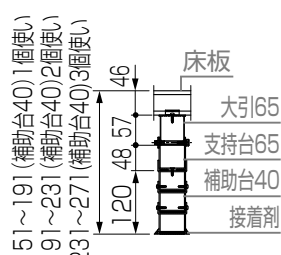


大引65と支持台65

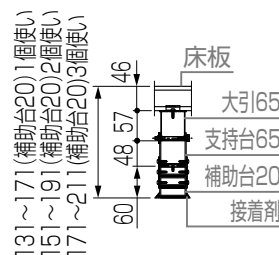
大引45と支持台45



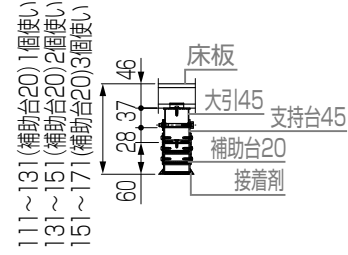
大引45と支持台45と補助台40



大引65と支持台65と補助台40

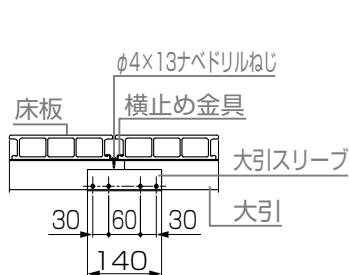
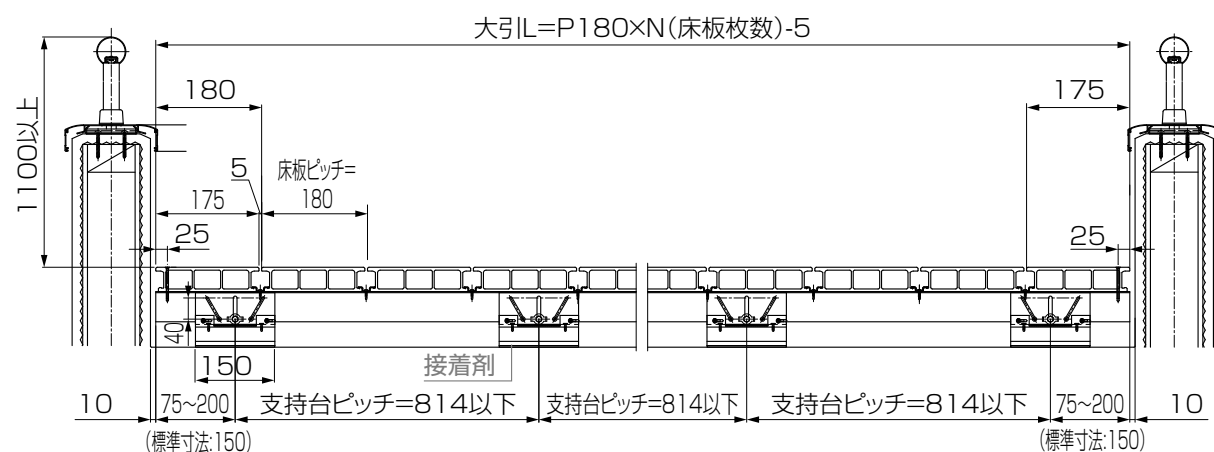


大引65と支持台65と補助台20

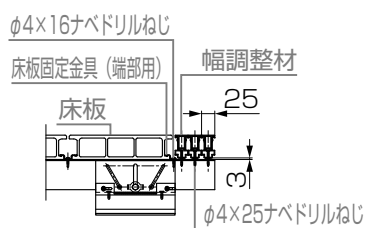


大引45と支持台45と補助台20

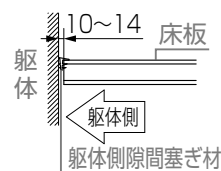
1-2-2 縦張り 正面断面図



大引を連結した場合



幅調整材を使用した場合

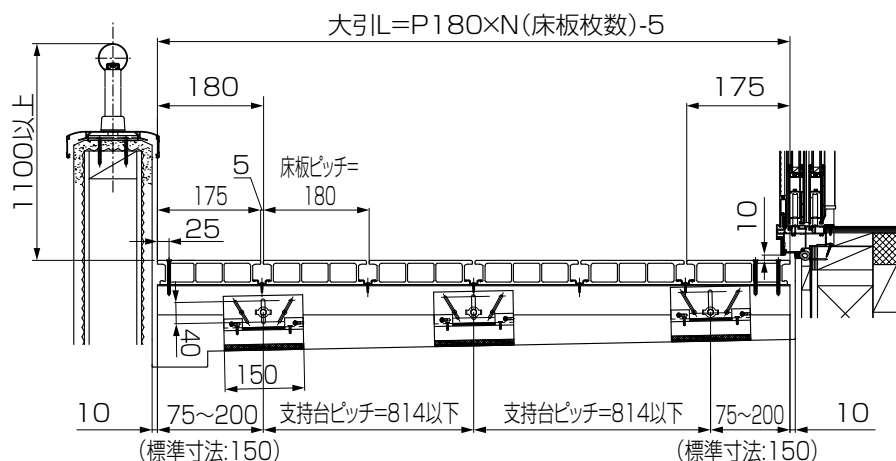


躯体側隙間塞ぎ材を使用した場合

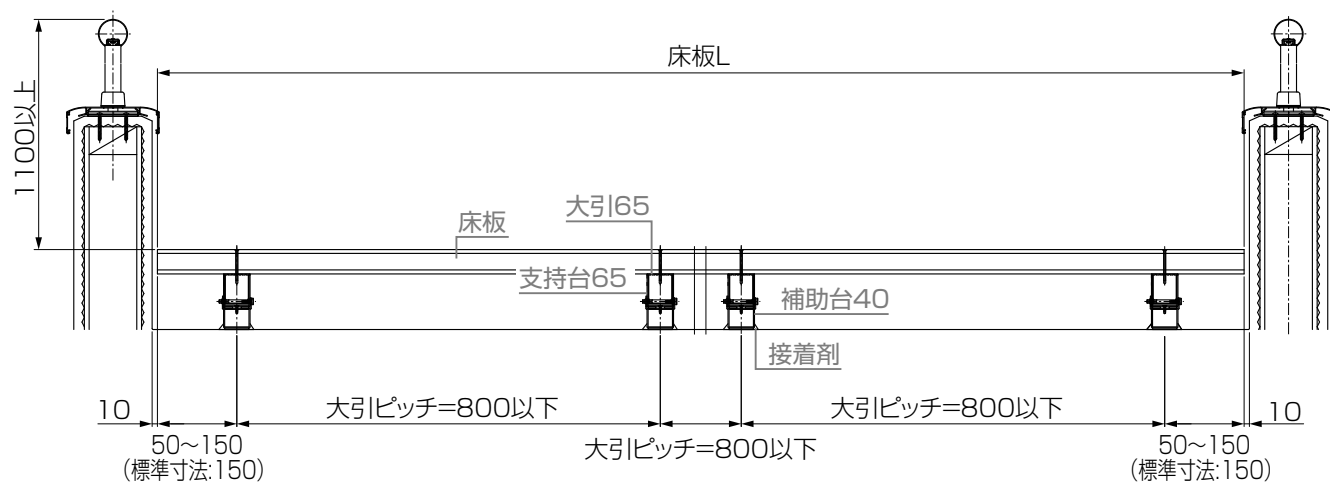
1 基本寸法と各部名称

1-2 詳細納まり

1-2-3 横張り 縦断面図



1-2-4 横張り 正面断面図

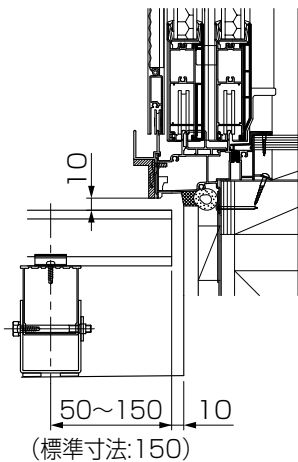


1 基本寸法と各部名称

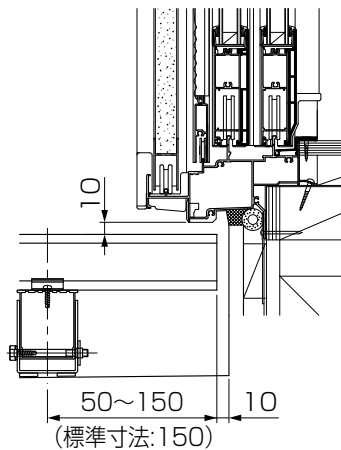
1-2 詳細納まり

1-2-5 サッシ納まり図

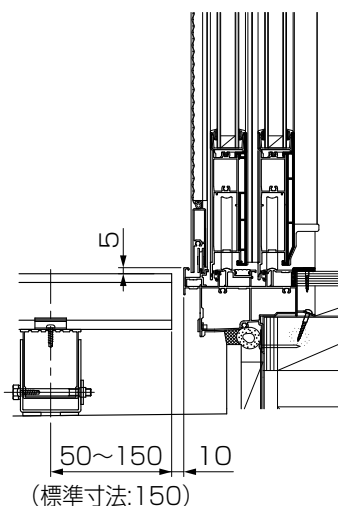
●住宅サッシ



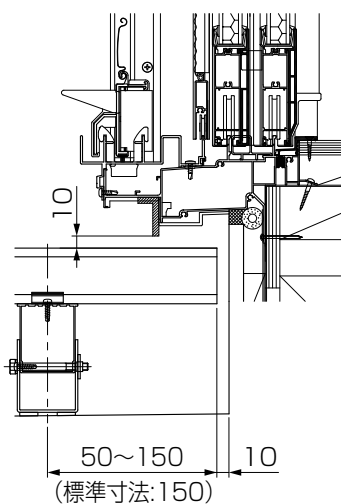
●雨戸サッシ



●住宅フラットサッシ



●シャッター



1-3 基本寸法

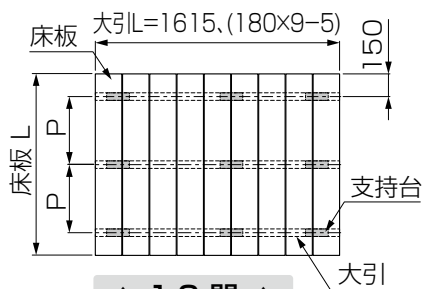
1-3-1 基本寸法（樹ら楽 柵目・木彫・プレーンタイプ、デッキDS、デッキDC）

補 足

- 大引のピッチ(P)は必ず800mm以下にしてください。
- 大引センターからの床板はね出しは50～150mmの範囲にしてください。
- 点検口を設置する場合は大引き寸法や数量が異なります。

●縦張り

【端部上止め】



▲ 1.0 間 ▲



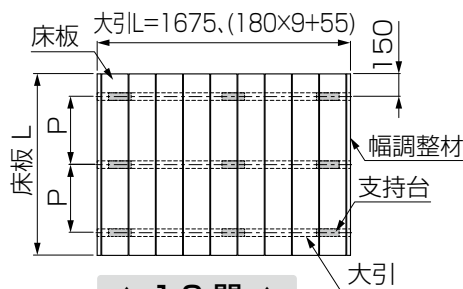
▲ 1.5 間 ▲



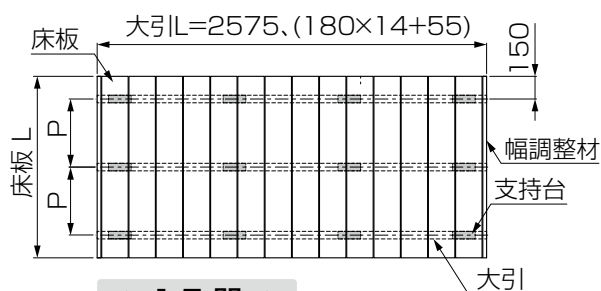
▲ 2.0 間 ▲

●大引L=180×N(床板枚数) - 5
(床板Wは175mm、目地は5mmです)

【端部幅調整材使用】



▲ 1.0 間 ▲



▲ 1.5 間 ▲



▲ 2.0 間 ▲

●大引L=180×N(床板枚数) + 55
(床板Wは175mm、目地は5mmです)

端部上止めの場合の必要数

出幅	床板L	1.0間			1.5間			2.0間		
		床板枚数	大引本数	大引L	床板枚数	大引本数	大引L	床板枚数	大引本数	大引L
3尺	900	9枚	2本	1615	14枚	2本	2515	19枚	2本	3415
4尺	1200	9枚	3本	1615	14枚	3本	2515	19枚	3本	3415
5尺	1500	9枚	3本	1615	14枚	3本	2515	19枚	3本	3415
6尺	1800	9枚	3本	1615	14枚	3本	2515	19枚	3本	3415

端部幅調整材使用の場合の必要数

出幅	床板L	1.0間			1.5間			2.0間		
		床板枚数	大引本数	大引L	床板枚数	大引本数	大引L	床板枚数	大引本数	大引L
3尺	900	9枚	2本	1675	14枚	2本	2575	19枚	2本	3475
4尺	1200	9枚	3本	1675	14枚	3本	2575	19枚	3本	3475
5尺	1500	9枚	3本	1675	14枚	3本	2575	19枚	3本	3475
6尺	1800	9枚	3本	1675	14枚	3本	2575	19枚	3本	3475

1 基本寸法と各部名称

1-3 基本寸法

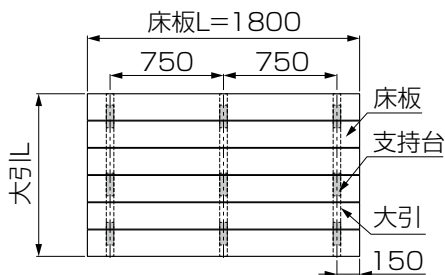
1-3-1 基本寸法（樹ら楽 柵目・木彫・プレーンタイプ、デッキDS、デッキDC） つづき

補 足

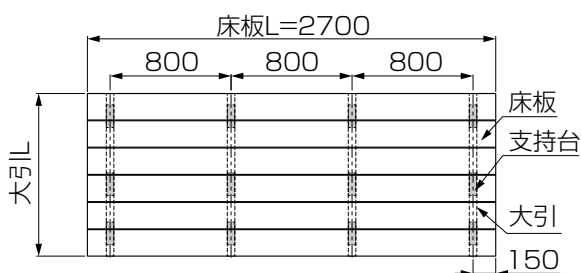
- 大引のピッチ(P)は必ず800mm以下にしてください。
- 大引センターからの床板はね出しは50～150mmの範囲にしてください。
- 点検口を設置する場合は大引き寸法や数量が異なります。

●横張り

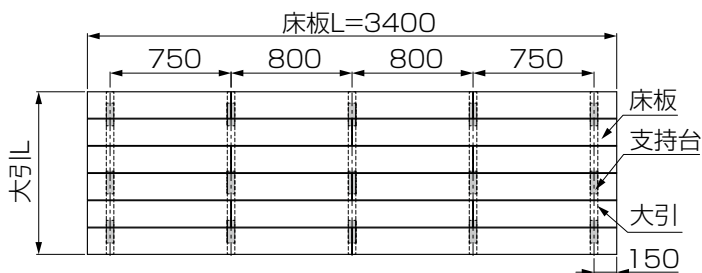
【端部上止め】



▲ 1.0 間 ▲



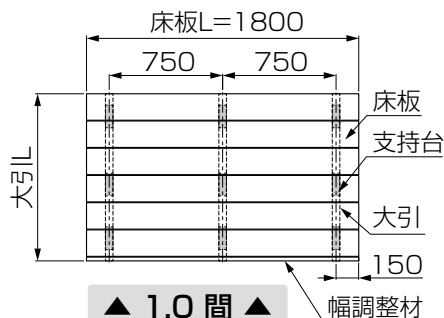
▲ 1.5 間 ▲



▲ 2.0 間 ▲

●大引L=180×N(床板枚数)－5
(床板Wは175mm、目地は5mmです)

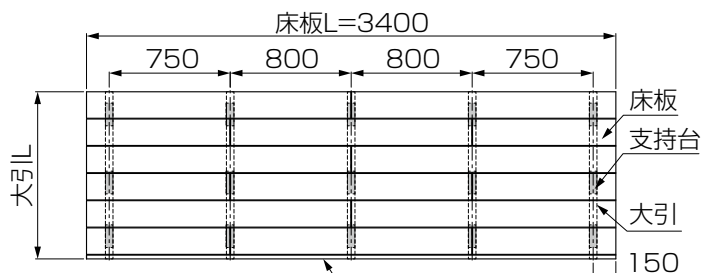
【端部幅調整材使用】



▲ 1.0 間 ▲



▲ 1.5 間 ▲



▲ 2.0 間 ▲

●大引L=180×N(床板枚数)＋25
(床板Wは175mm、目地は5mmです)

端部上止めの場合の必要数

* 床板L1800と900の千鳥張り

		1.0間			1.5間			2.0間		
出幅	大引L	床板枚数	大引本数	床板L	床板枚数	大引本数	床板L	床板枚数	大引本数	床板L
3尺	895	5枚	3本	1800	5枚	4本	2700	5枚	5本	3400*
4尺	1075	6枚	3本	1800	6枚	4本	2700	6枚	5本	3400*
5尺	1435	8枚	3本	1800	8枚	4本	2700	8枚	5本	3400*
6尺	1795	10枚	3本	1800	10枚	4本	2700	10枚	5本	3400*

端部幅調整材使用の場合の必要数

* 床板L1800と900の千鳥張り

		1.0間			1.5間			2.0間		
出幅	大引L	床板枚数	大引本数	床板L	床板枚数	大引本数	床板L	床板枚数	大引本数	床板L
3尺	925	5枚	3本	1800	5枚	4本	2700	5枚	5本	3400*
4尺	1105	6枚	3本	1800	6枚	4本	2700	6枚	5本	3400*
5尺	1465	8枚	3本	1800	8枚	4本	2700	8枚	5本	3400*
6尺	1825	10枚	3本	1800	10枚	4本	2700	10枚	5本	3400*

2 大引の取付け

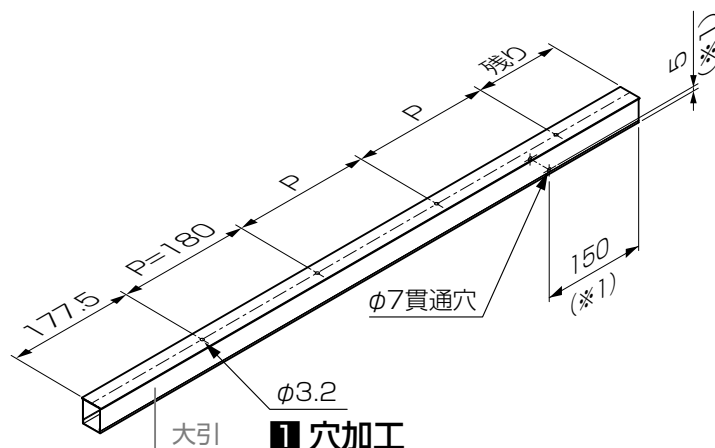
2-1 大引の加工

❶:ピッチ幅(P)に合わせて大引上面センターにφ3.2の穴加工

💡 お願い

▼ 大引を切り詰めた場合 ▼

- 端部から150mmの位置にφ7貫通穴をあけてください。(※1)



2 大引の取付け

2-2 補助台40 (20) を取付ける場合

💡 お願い

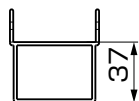
- 大引に支持台を取付ける前に補助台を取付けてください。

❶:補助台を支持台に【2a】、【2b】で取付け

●床高さ一覧

	大引65	大引45
補助台20 なし	111~151	91~111
// 1個	131~171	111~131
// 2個	151~191	131~151
// 3個	171~211	151~171
補助台40 なし	111~151	91~111
// 1個	151~191	131~151
// 2個	191~231	171~191
// 3個	231~271	211~231

●補助台40



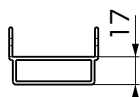
●大引65



●支持台65



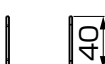
●補助台20



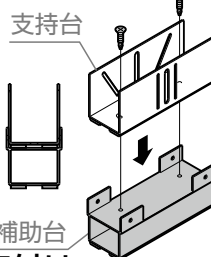
●大引45



●支持台45



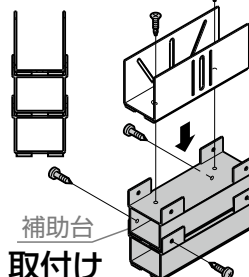
【2b】φ4×13
サラドリルねじ



▲ 1段の場合 ▲

【2b】φ4×13
サラドリルねじ

❶ 取付け

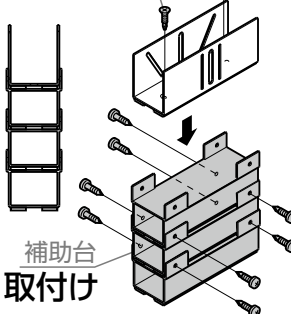


▲ 2段の場合 ▲

【2a】φ4×16
ナベドリルねじ

【2b】φ4×13
サラドリルねじ

❶ 取付け

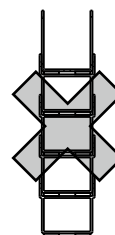


【2a】φ4×16
ナベドリルねじ

▲ 3段の場合 ▲

💡 お願い

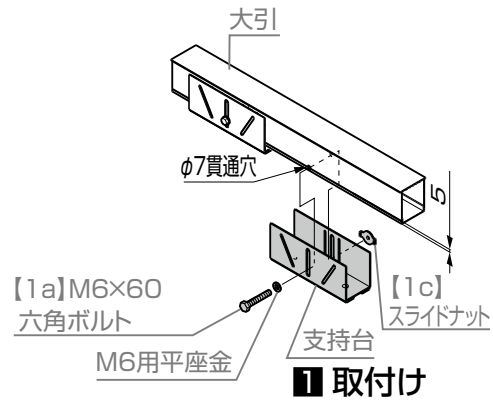
- 4段以上は取付けないでください。



2 大引の取付け

2-3 大引の取付け

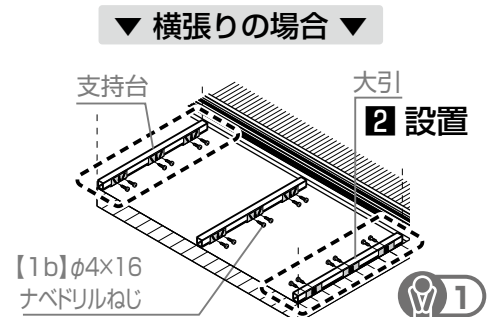
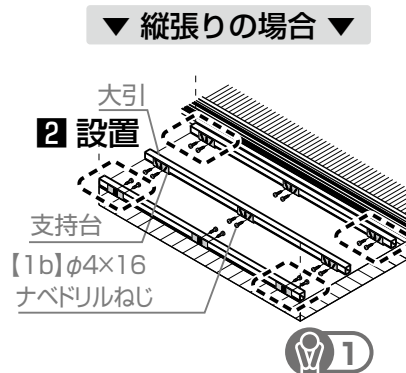
- 1:** 支持台を大引に【1a】、【1c】、
M6用平座金で取付け



- 2:** 大引を設置

お願い

- 大引ピッチが800以下になるように、大引を設置してください。



お願い 1

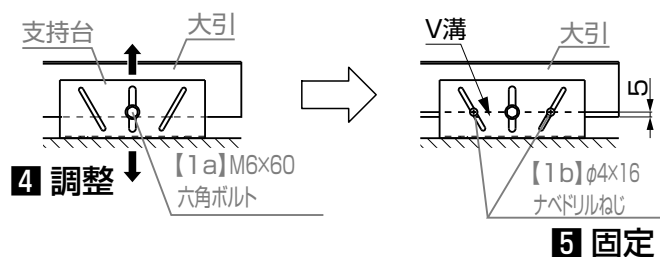
- 両端部の支持台の向きは、躯体側がスライドナットになる様に注意してください。躯体などに影響されねじ止めできなくなります。

- 3:** 床板を大引の両端に仮止め

- 4:** 床の高さ、水平を調整

お願い

- 大引の位置がずれないように床板を仮止めしてから、床の高さと水平を調整してください。

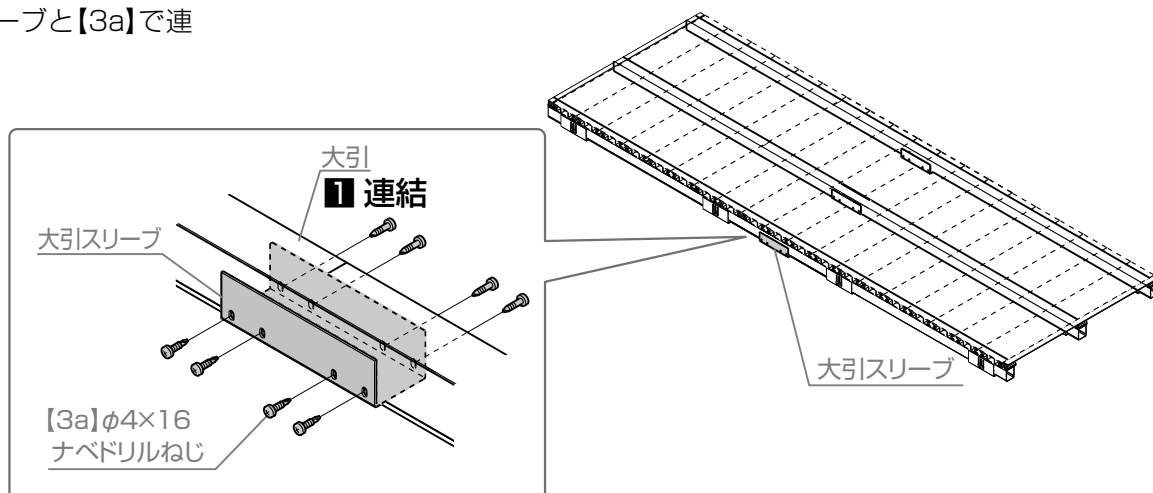


- 5:** 支持台を大引のV溝に【1b】で固定

2 大引の取付け

2-4 大引を連結する場合

❶:大引を大引スリーブと【3a】で連結



2-5 支持台の接着

お願い

- ベランダ床面の接着部の汚れ、油分などをウエスなどで必ず除去してください。接着不良の原因になります。

❶:プライマーをハケで薄く塗布

お願い

- プライマーを20～30分乾燥させてください。

❷:接着剤を支持台の根元に塗布

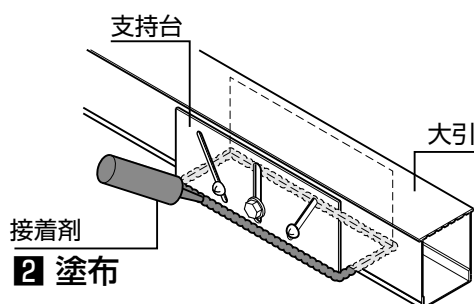
お願い

- 必ず4面に塗布してください。

❸:コーキングヘラで接着剤を充填

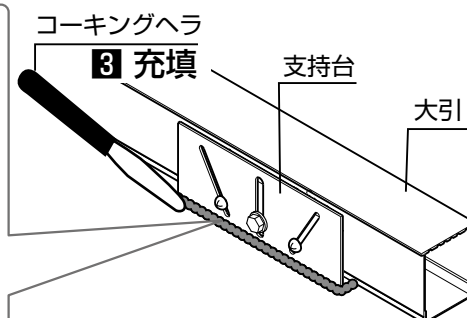
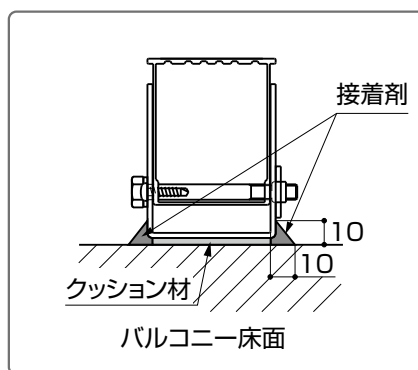
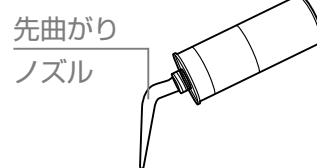
お願い

- 接着剤は支持台(補助台)の根元に十分に塗布し、コーキングヘラで接着剤を押さえて充填してください。
- 接着後は支持台(補助台)がズレないように注意してください。
- 下記指定の接着剤を使用してください。
指定接着剤:セメダイン(株)製
プライマー:MP1000
接着剤:PM165R、PM165RX
(エポキシ変性シリコン系)
333mlカートリッジ
(支持台およそ6個分)
- 接着剤の硬化時間は下記を目安としてください。
夏季:6時間
冬季:24時間



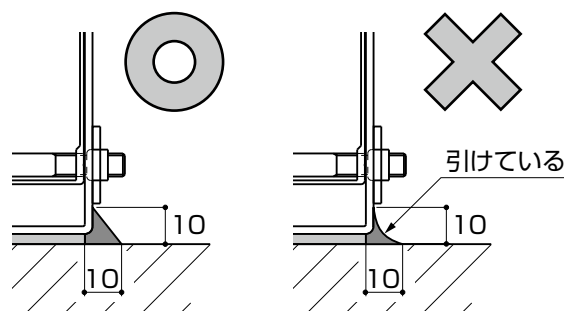
補足

- 躯体側など狭くて施工がやりにくい箇所は先曲がりノズルを使うと便利です。



お願い

- 接着剤の量が少なかったり、引けていると接着力が低下しますので注意してください。



3 床板の施工

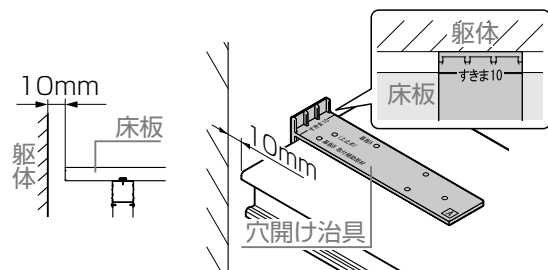
3-1 床板の取付け

3-1-1 床板取付け前の確認

※幅調整材を使用する場合はP22を参照してください。

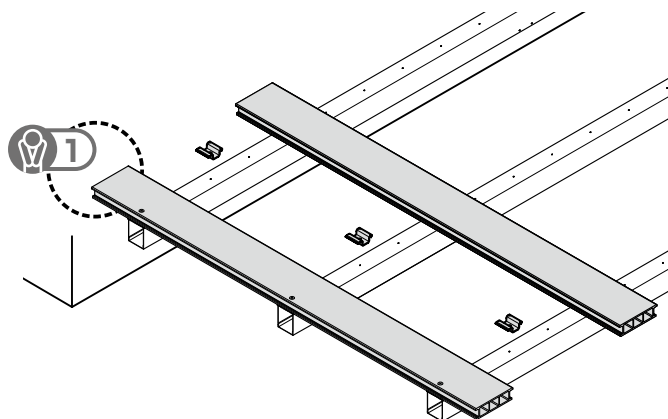
お願い 1

- 床板と躯体のすき間に穴開け治具を当て、すき間が10mm以上あることを確認してください。



通常納まり：10mm

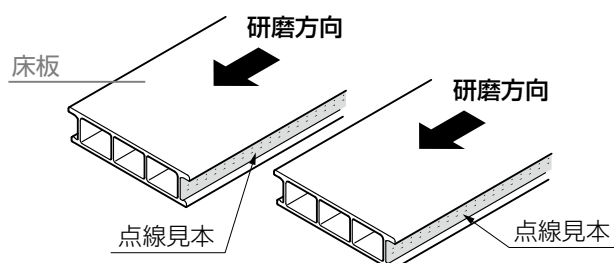
躯体側隙間塞ぎ材 **オプション** 使用時：10～14mm



お願い

▼ 柱目・プレーンタイプの場合 ▼

- 床板表面は研磨加工がされており、研磨方向によっては色が異なって見える場合があります。床板の加工方向を一定にしてから固定してください。
- 側面の点線見本のある加工面についても、研磨方向を揃えて施工するようご注意ください。

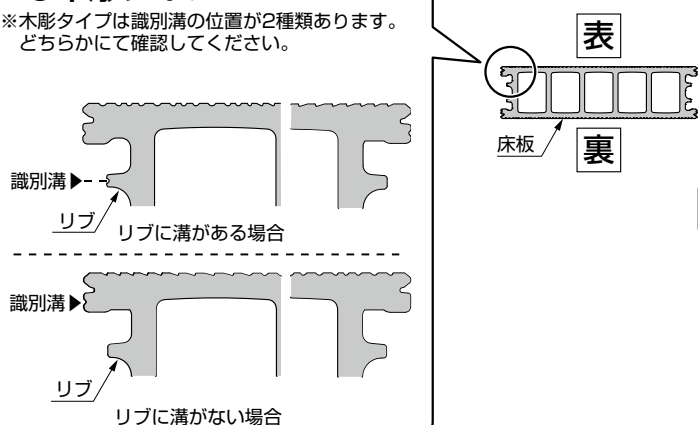


▼ 木彫・デッキDCの場合 ▼

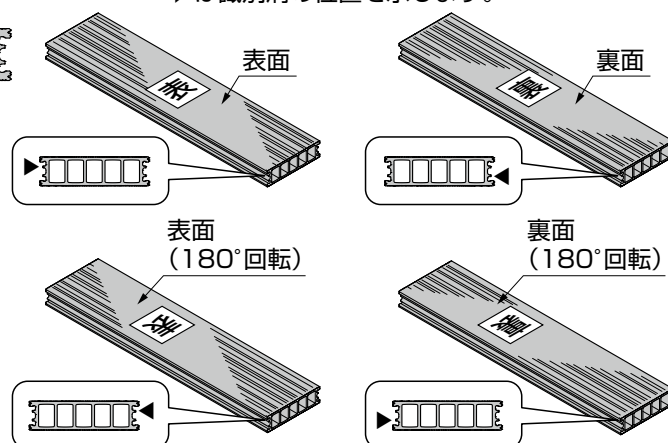
- 床板の表面には不規則な溝があり、表裏・回転により4パターンの柄の組合せが可能です。現場状況に合わせて床板を組合せて取付けてください。側面には木彫の場合は識別用の溝があり、デッキDCの場合は識別用の突起があります。

●木彫タイプ

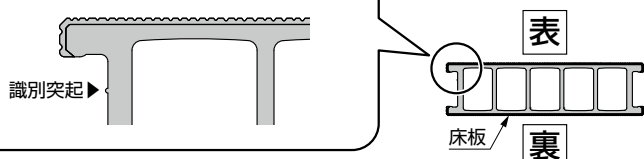
※木彫タイプは識別溝の位置が2種類あります。どちらかにて確認してください。



▶は識別溝の位置を示します。

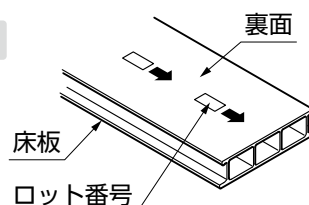


●デッキDC



▼ デッキDS（裏面にロット番号と矢印付き）の場合 ▼

- 矢印の方向を揃えてから施工してください。
- 研磨方法は「柱目・プレーンタイプの場合」を参照してください。



3-1 床板の取付け

3-1-2 床板の取付け ※樹ら楽の取付け手順で説明しています。異なる場合は都度記載します。

1: 1枚目の床板を大引に【8a】で取付け

注意

- 電動ドライバー等での締め付け過ぎに注意してください。締め込み過ぎると床板が割れるおそれがあります。

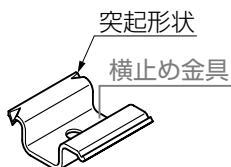
お願い

- 床板と大引は面一で合わせてください。

2: 横止め金具を床板のフィン部に乗せて、下穴の位置に【6a】で取付け

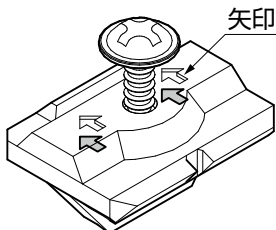
お願い

- 突起形状のある側を、床板のフィン部に取付けてください。



▼ 木彫・デッキDCの場合 ▼

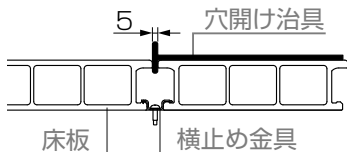
- 突起部(矢印方向)を、床板のフィン部にのせて取付けてください。



3: 床板を横止め金具に差込む

お願い

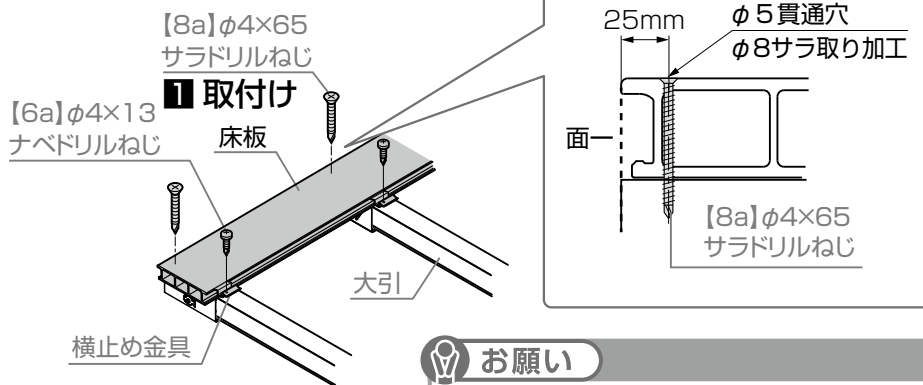
- 床板と床板のすき間は、穴開け治具を使用して5mmになるように固定してください。



お願い 1

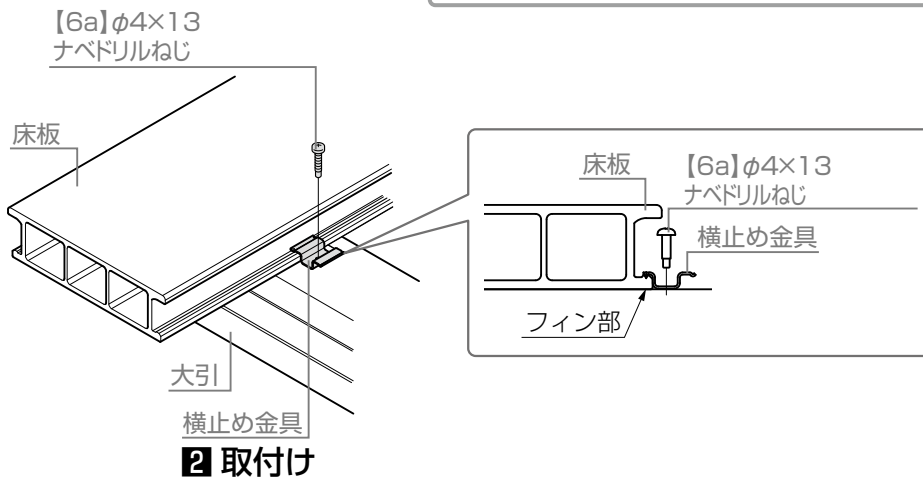
- 床板が横止め金具に入りにくい時はゴムハンマーなどで軽くたたいて入れてください。

4: 手順2、3を繰り返す

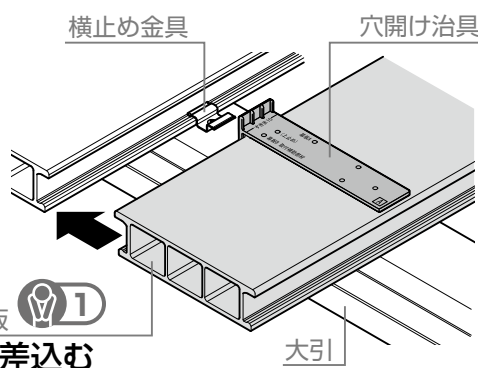
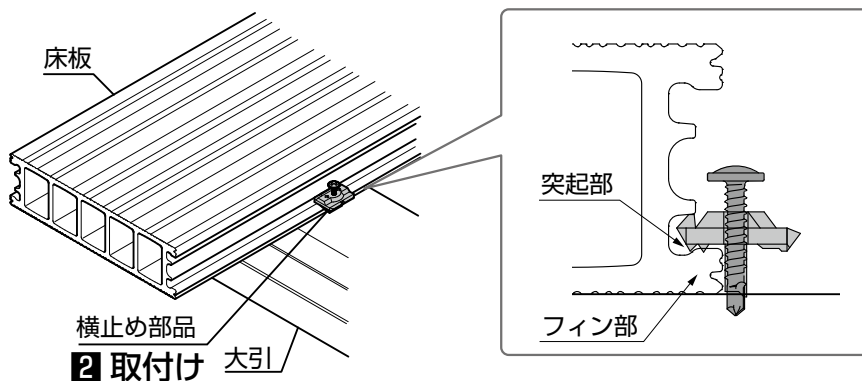


お願い

- 木彫・デッキDCの場合はインナー材を入れてください (P.21参照)。



▼ 木彫・デッキDCの場合 ▼



3 床板の施工

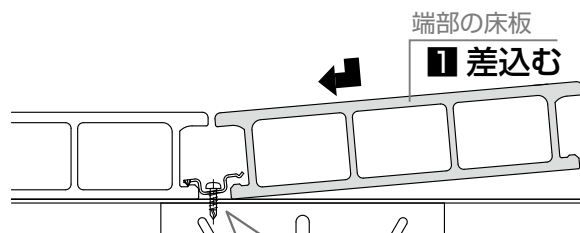
3-1 床板の取付け

3-1-3 端部床板の取付け

1: 端部の床板を横止め部品に差込む

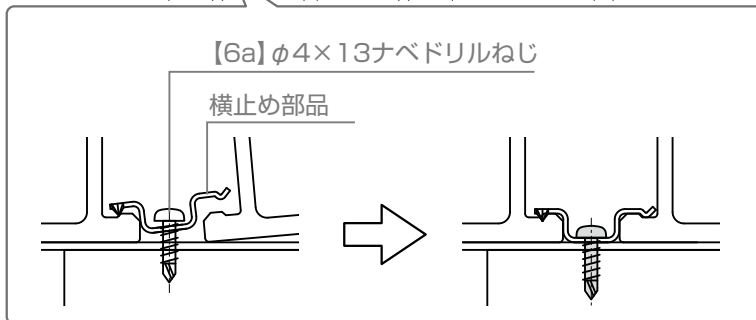
お願い

- 横止め部品のねじを緩め、横止め部品を上げながら差込んでください。



【6a】φ4×13ナベドリルねじ

横止め部品

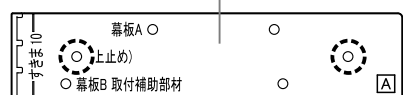


2: 床板にφ4.5の貫通穴加工

お願い

- 穴開け治具の○印の穴を使ってください。

穴開け治具



- 穴は大引の中心箇所にあけてください。

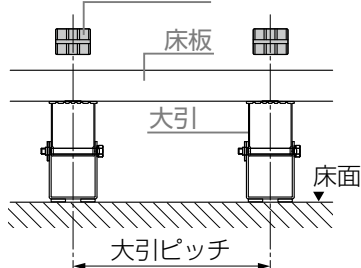
穴開け治具

床板

大引

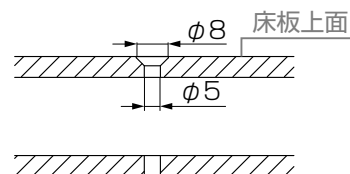
床面

大引ピッチ



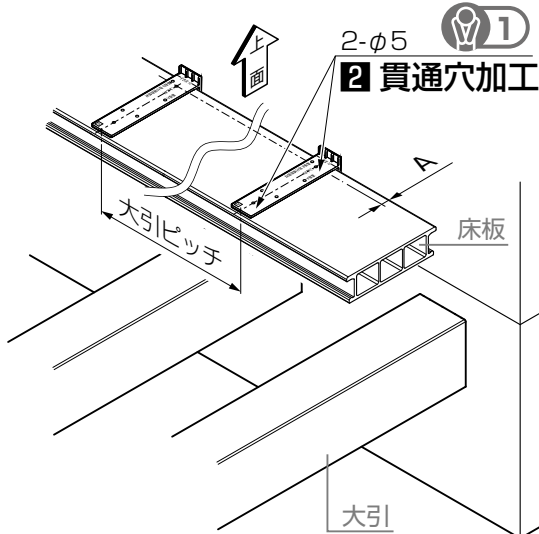
お願い 1

- 床板上面のφ5貫通穴にφ8サラ取り加工をしてください。



2 貫通穴加工

2-φ5



	A寸法
縦切りしない場合	25mm(穴開け治具使用)
縦切りする場合	P.21参照

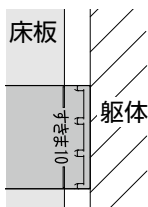
3: 床板を大引に【8a】で取付け

注意

- 電動ドライバー等での締め付け過ぎに注意してください。締め込み過ぎると床板が割れるおそれがあります。

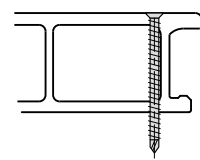
お願い

- 床板と躯体のすき間に穴開け治具を当て、すき間が10mm以上あることを確認してください。

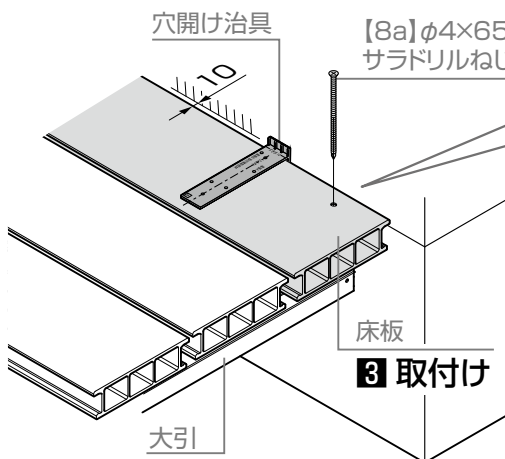


穴開け治具

【8a】φ4×65
サラドリルねじ



3 取付け



お願い

- 木彫・デッキDCの場合はインナー材を入れてください（P.21参照）。

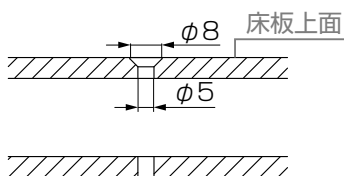
3-2 床板を縦連結する場合

注意

- 床板の連結は必ず大引きの中心で行ってください。連結が中心からずれていると、横止め部品の爪が引っかかり床板の外れやズレのおそれがあります。
- 床板を連結する場合は、必ず千鳥張りにしてください。千鳥張りにしないと、床板の連結部に荷重が集中して、床板が反り変形するおそれがあります。

お願い 1

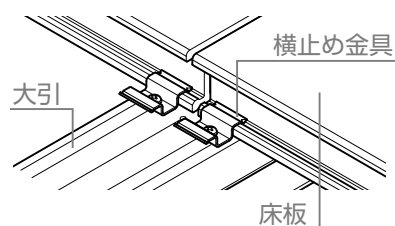
- 床板上面の $\phi 5$ 貫通穴に $\phi 8$ サラ取り加工をしてください。



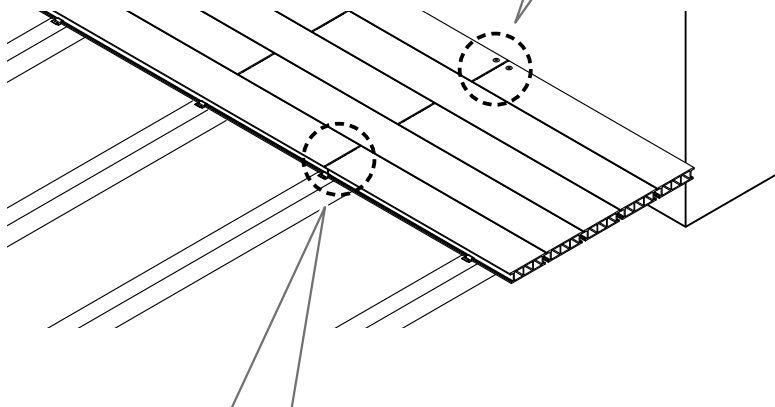
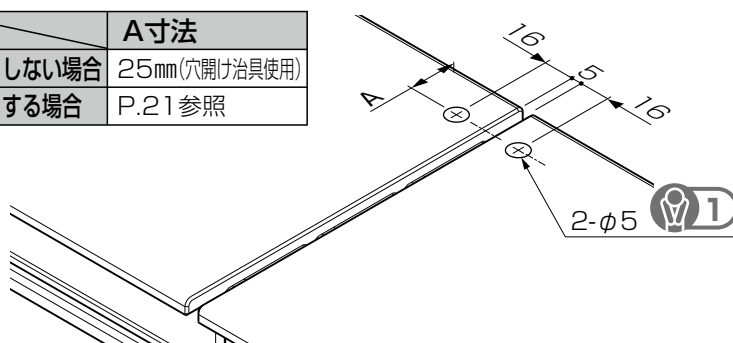
補足

▼ より確実な固定が必要な場合 ▼

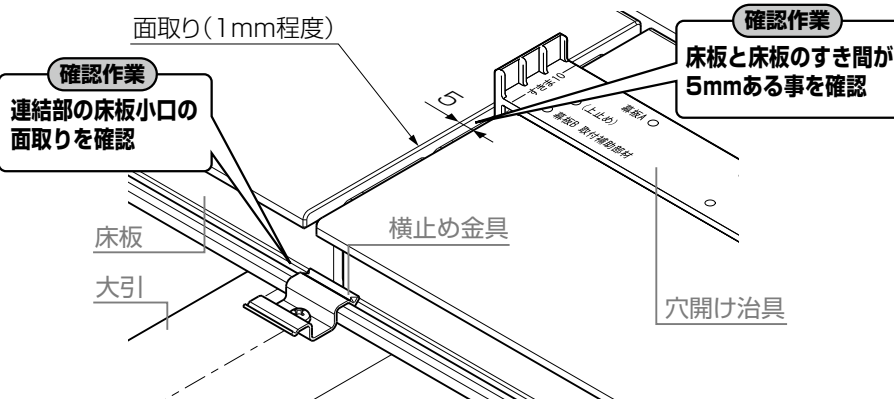
- 横止め金具は並べて2個まで大引に取付けることができます。



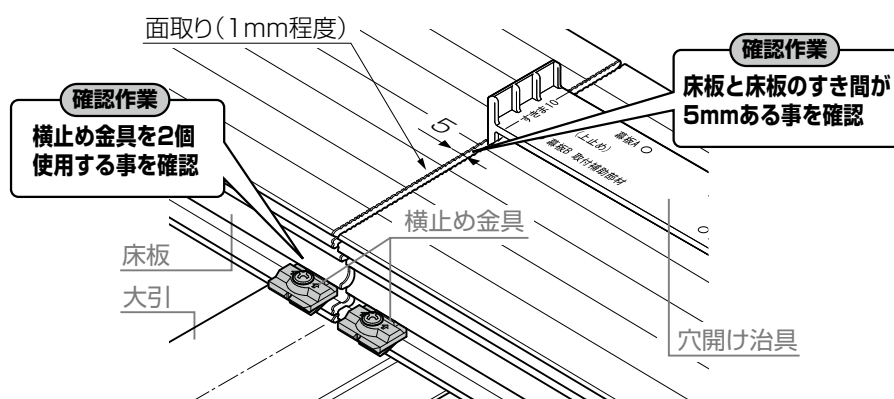
	A寸法
縦切りしない場合	25mm(穴開け治具使用)
縦切りする場合	P.21 参照



▼ 樹ら楽 柃目・プレーンタイプ・デッキDSの場合 ▼



▼ 木彫タイプ・デッキDCの場合 ▼



3 床板の施工

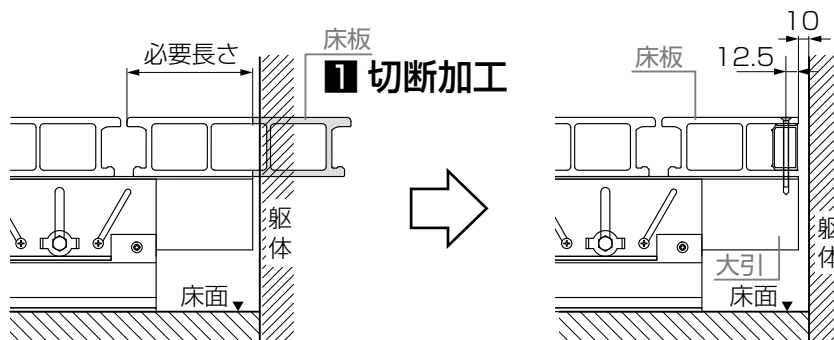
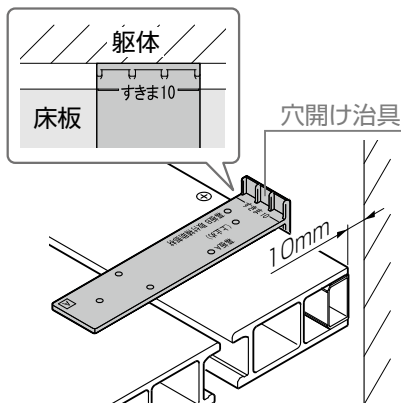
3-3 床板を縦切りする場合 ※床板の縦切りをする場合には、必ずこの作業を行ってください。

3-3-1 床板の取付け

1: 床板を必要な幅に切断加工

お願い

- 床板と躯体のすき間に穴開け治具を当て、すき間が10mmあることを確認してください。



1 切断加工

2: 床板縦切りINNER材を床板両端部から5mmに切断

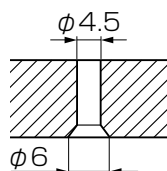
3: 床材にφ4.5の下穴加工

お願い

- 床板の床板縦切りINNER材を固定する位置に加工してください。

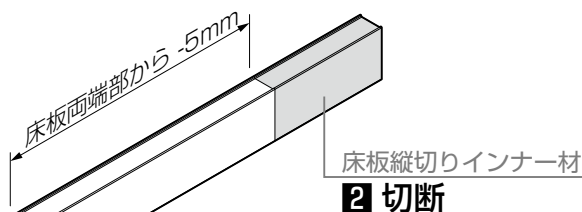
お願い 1

- 床板下面のφ4.5貫通穴にφ6サラ取り加工をしてください。

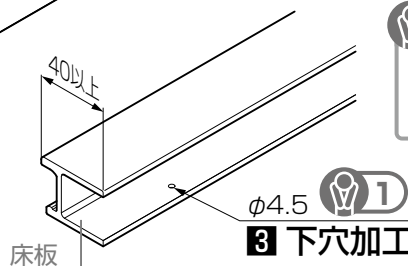


お願い 2

- INNER材は必ず床板小口より5mm短くしてください。



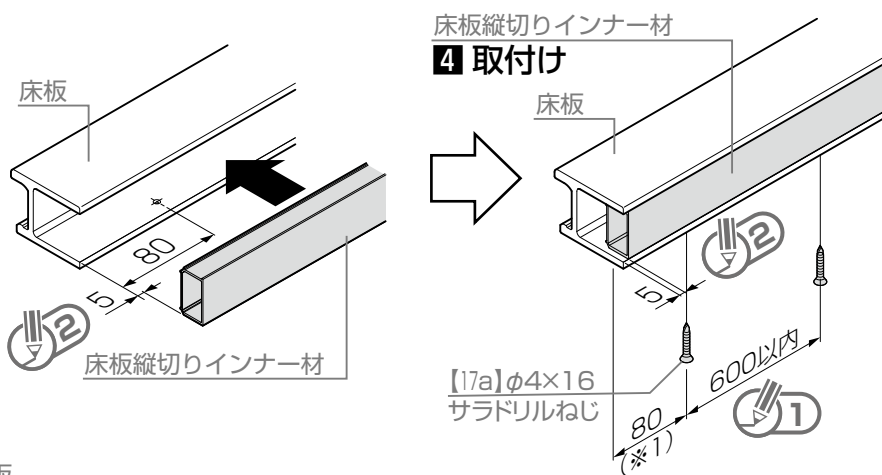
2 切断



3 下穴加工

お願い

- 床板の切断面は面取りをしてください。



4: 床板縦切りINNER材を床材に【17a】で取付け

注意

- 床板縦切りINNER材端部と端部ねじとの寸法(※1)は必ず80mmにしてください。床板割れの原因になります。

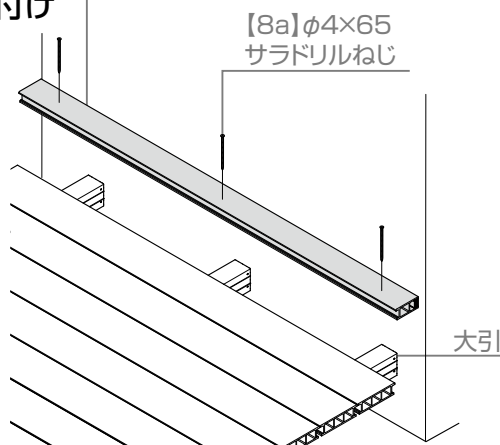
補足 1

- 【17a】の取付けピッチは600mm以内にしてください。

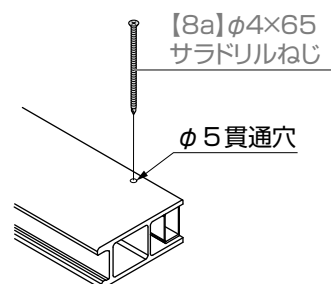
5: 床板を大引に【8a】で取付け

床板

5 取付け



【8a】φ4×65
サラドリルねじ



【8a】φ4×65
サラドリルねじ

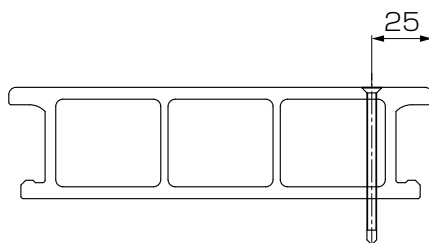
φ5貫通穴

3-3 床板を縦切りする場合 ※床板の縦切りをする場合には、必ずこの作業を行ってください。

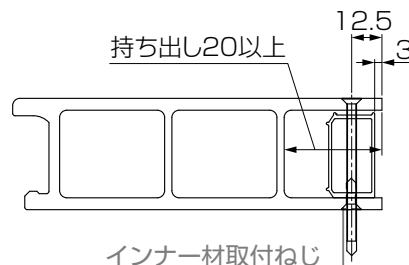
3-3-2 床板端部を残した切断の場合の加工

(1) 柱目・プレーンタイプ・デッキDS

▼ 切詰めしない場合 ▼
インナー材なし



▼ 持ち出しが20mm以上の場合 ▼
インナー材必要



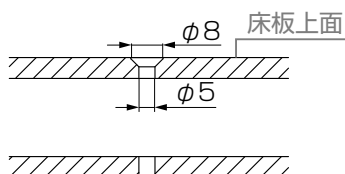
💡 お願い

▼ 床板端部以外の切断の場合 ▼

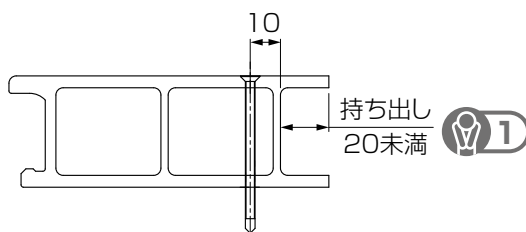
- リブからの持ち出しが20mm以上の場合にインナー材を使用してください。

💡 お願い 1

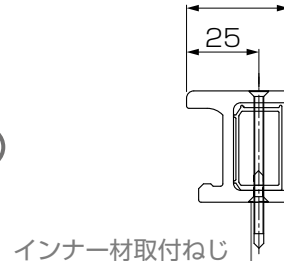
- 床板上面のφ5貫通穴にφ8サラ取り加工をしてください。



▼ 持ち出しが20mm未満の場合 ▼
インナー材なし

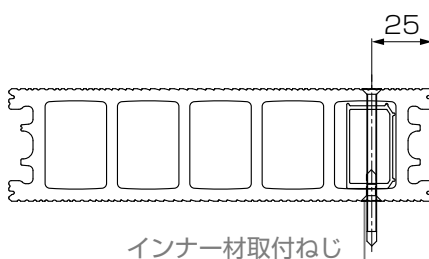


最小切詰寸法:40

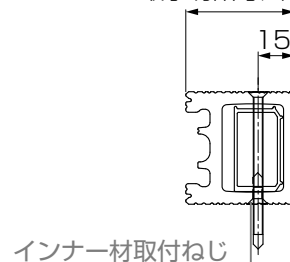


(2) 木彫・デッキDC

▼ 切詰めしない場合 ▼
インナー材必要



最小切詰寸法:45

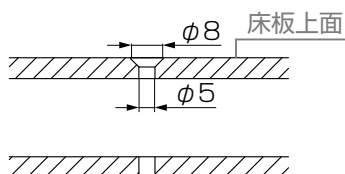


💡 お願い

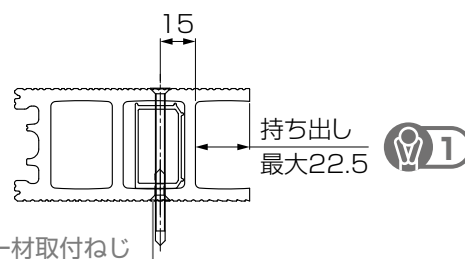
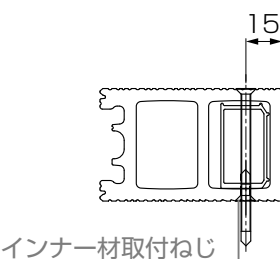
- 上止めねじ施工時はインナー材を使用してください。
- 縦切り時の持ち出しは最大22.5mmです。上止めねじ・インナー材固定ねじは縦リブ外面から15mmの位置で固定してください。

💡 お願い 1

- 床板上面のφ5貫通穴にφ8サラ取り加工をしてください。



▼ 持ち出しが0~22.5mmの場合 ▼
インナー材必要

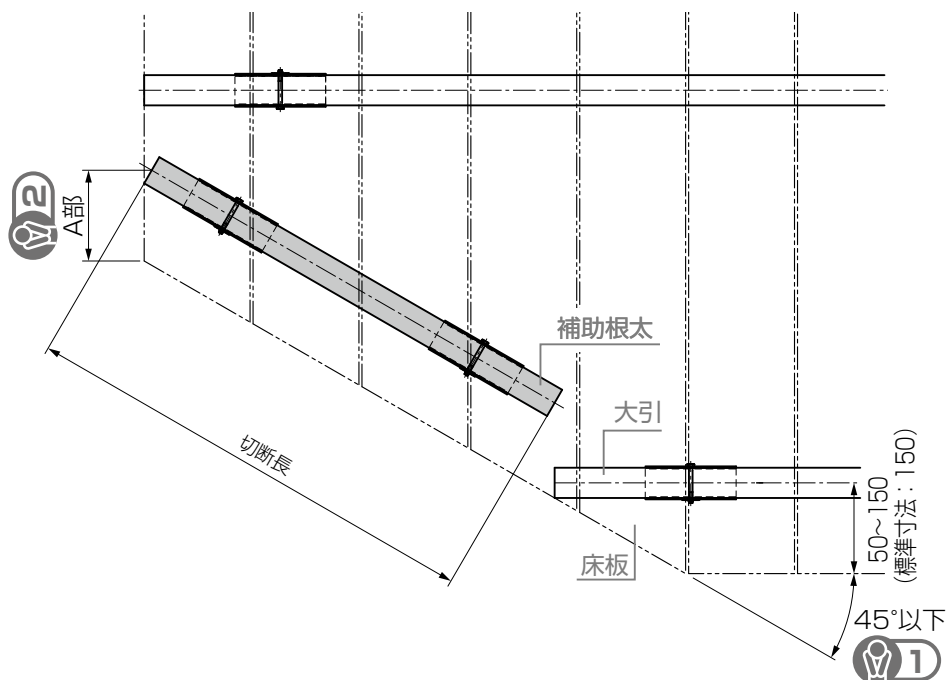


3 床板の施工

3-4 隅切り施工をする場合の納まり確認

お願い 1
●角度切りは45°以下にしてください。

お願い 2
●A部の寸法は150mm以下にしてください。

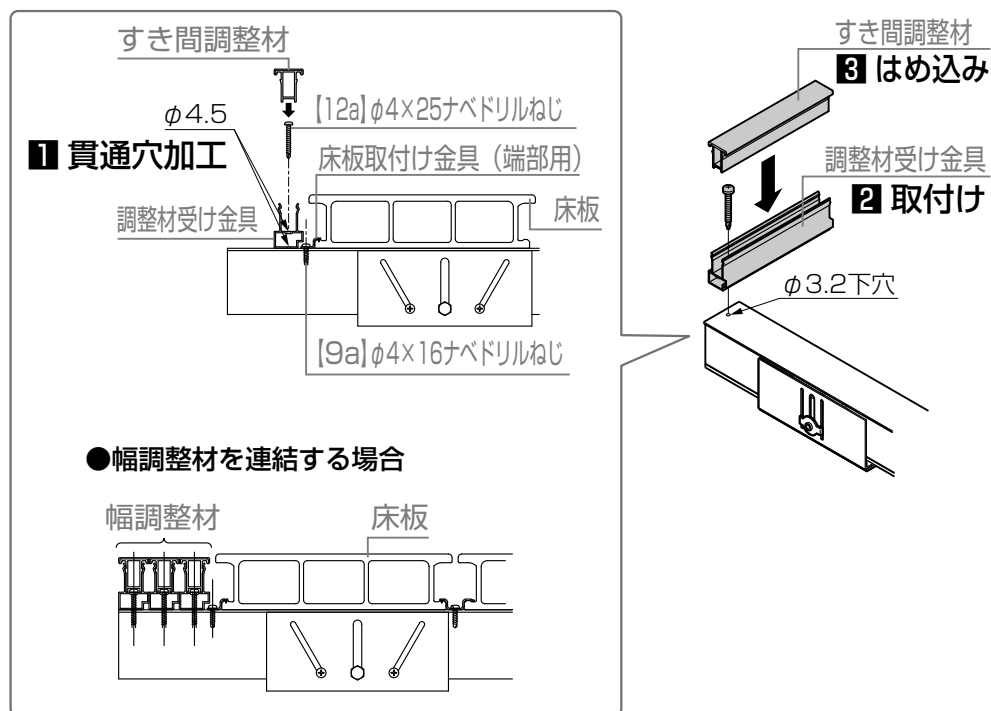


3-5 幅調整材の取付け

1:大引の位置に合わせて、調整材受け金具にφ4.5貫通穴加工

2:調整材受け金具を床板取付け金具(端部用)に【12a】で取付け

3:すき間調整材を調整材受け金具にはめ込み

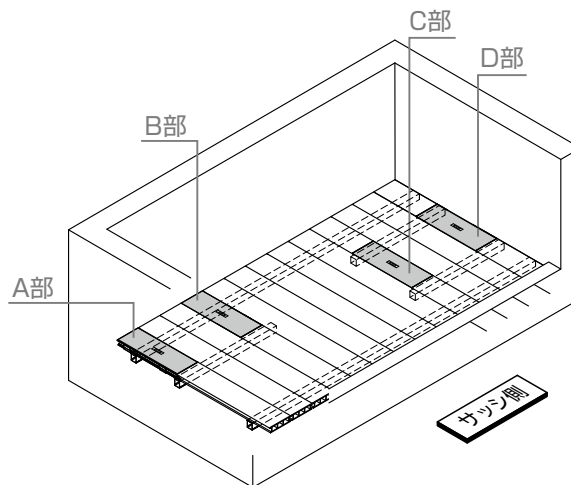


3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

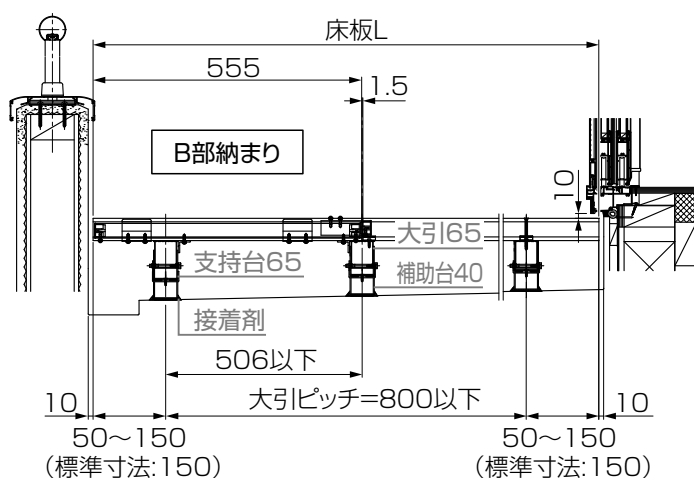
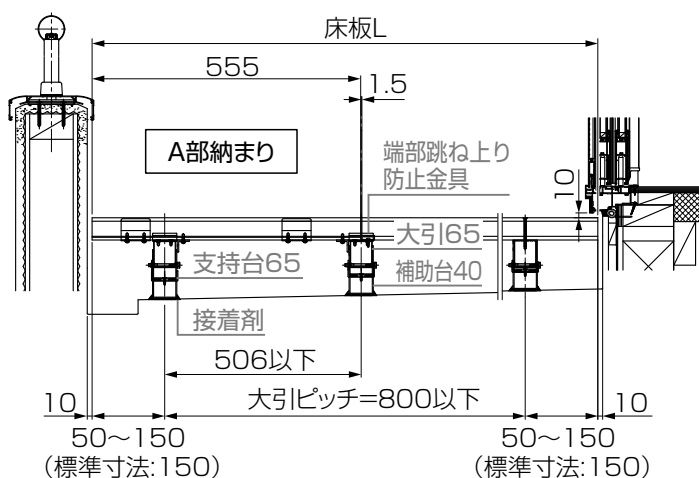
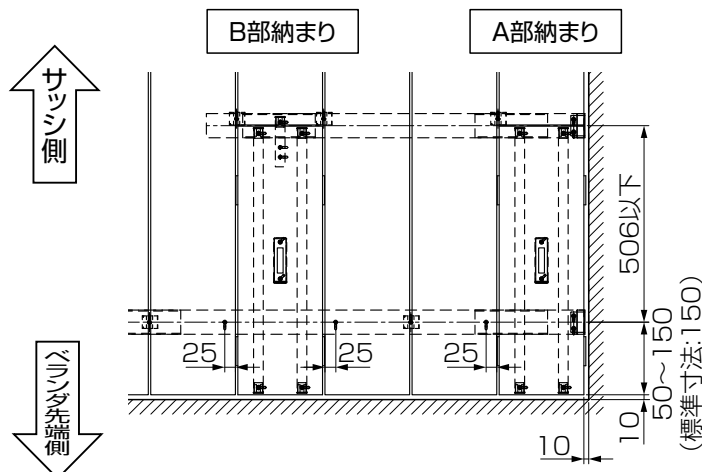
3-6-1 点検口の取付位置と納まりの確認（縦張りの場合）

お願い

- サッシ側には取付できません。
- A部の点検口は両端部には取付できません。
- A部、D部は床板を縦切りした場合は取付できません。隣の床板に取付けてください。



(1) ベランダ先端側（A部・B部）への取付け

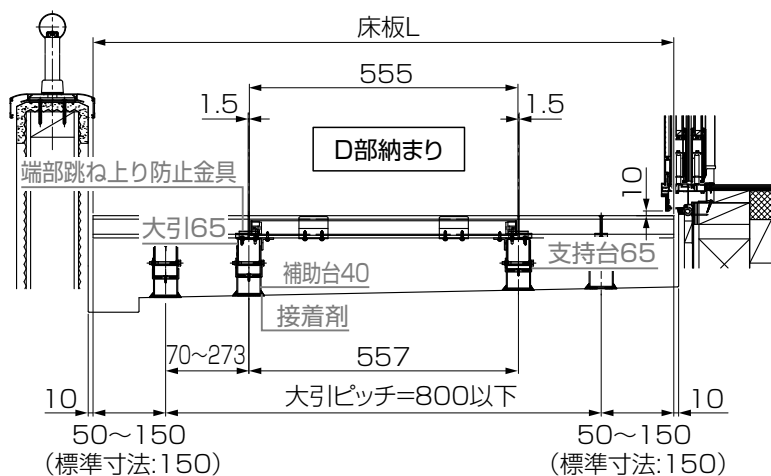
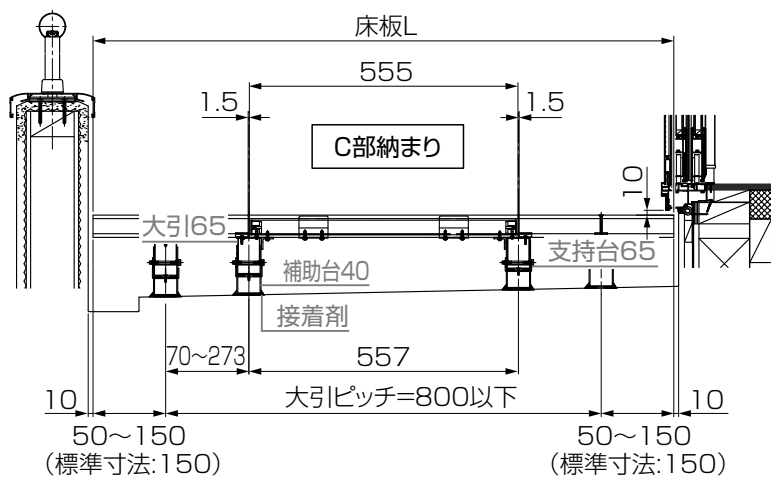
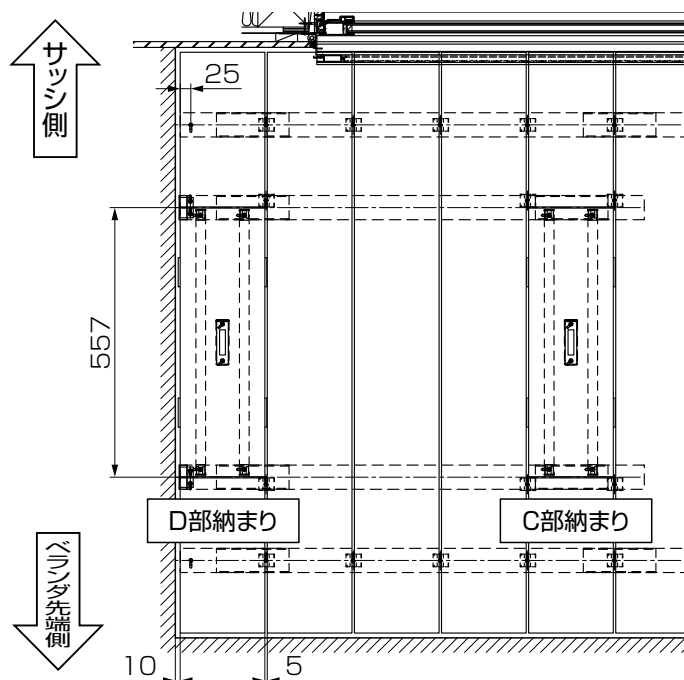


3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-1 点検口の取付位置と納まりの確認（縦張りの場合）

つづき

(2) ベランダ中央部（C部・D部）への取付け

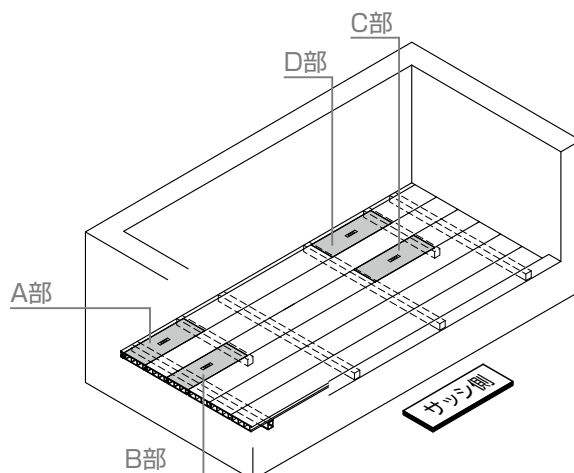


3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

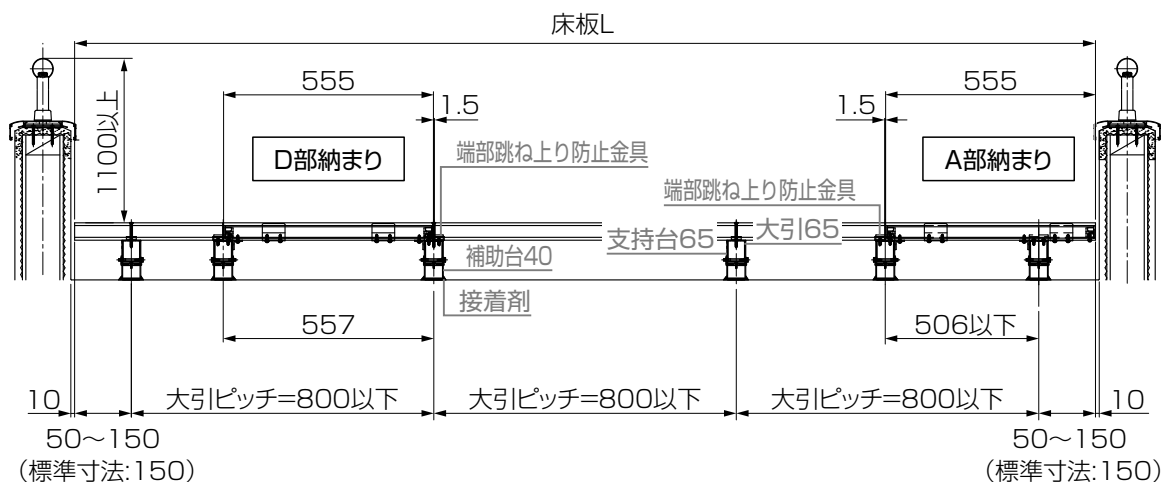
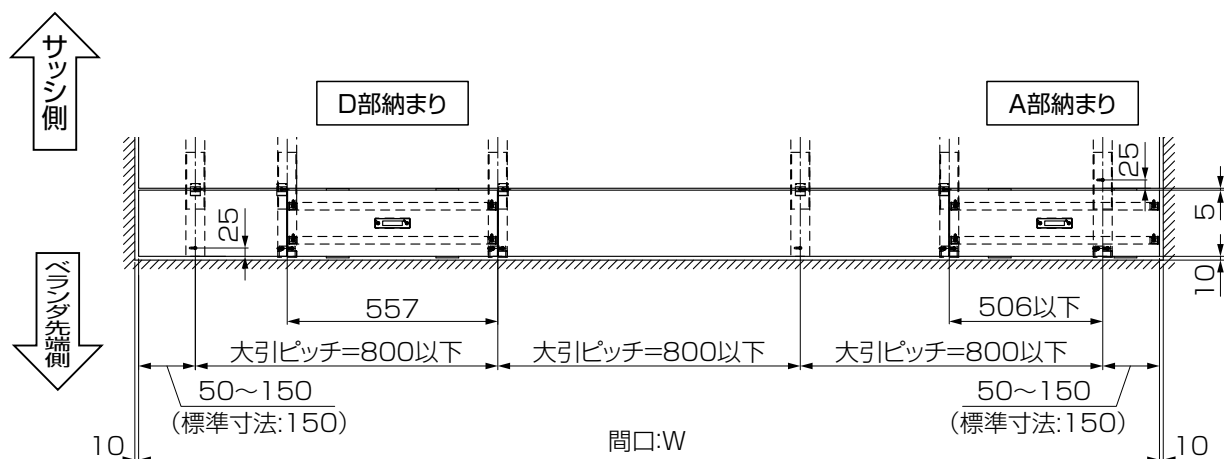
3-6-2 点検口の取付位置と納まりの確認（横張りの場合）

お願い

- サッシ側には取付できません。
- A部の点検口は両端部には取付できません。
- A部、D部は床板を縦切りした場合は取付できません。隣の床板に取付けてください。



(1) ベランダ先端側（A部・D部）への取付け



つづき

Technical drawing of a double door with two panels, labeled "C部納まり" (C-section fitting) and "B部納まり" (B-section fitting). The drawing shows the door's profile with dimensions: 557 for the C-section, 506以下 (506 or less) for the B-section, and 50~150 (標準寸法:150) for the panel thickness. The door is set into a frame with a total width "間口:W" (Opening: W). The frame has a height of 10 units on both sides.



3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-3 点検口の組立て

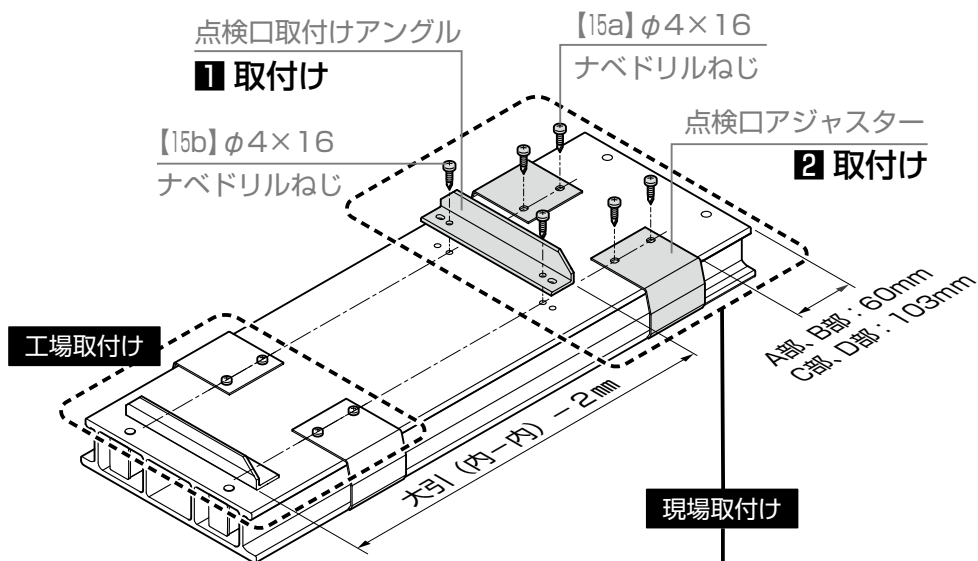
1: 点検口取付けアングルを【15b】で取付け

2: 点検口取付けアジャスターを【15a】で取付け

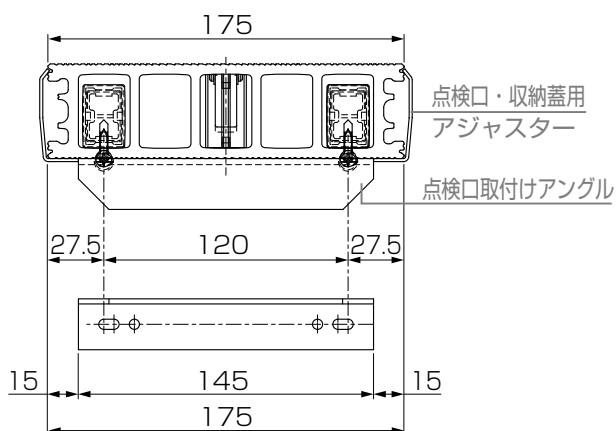
補 足

- 機種により取付穴の場所が異なります(下図参照)。
- 点検口アジャスターは、点検口本体と床板の間のガタツキをなくす部品です。
- 長穴を使ってガタツキをなくすため幅を調整してください。

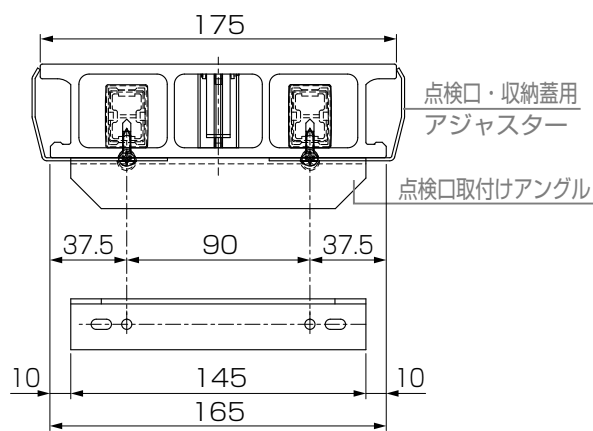
●点検口取付けアングル・
点検口アジャスター取付け位置



▼ 木彫・デッキDCの場合 ▼

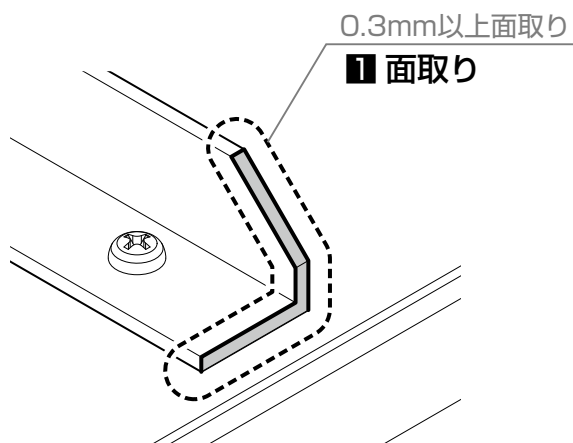
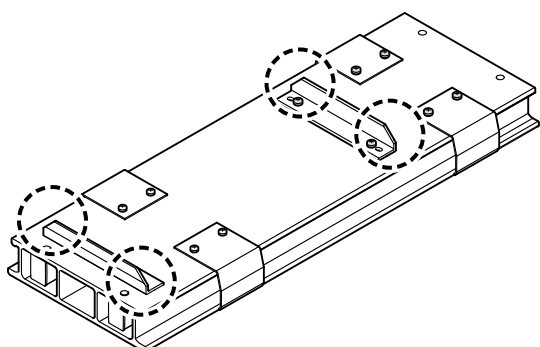


▼ 桎目・プレーンタイプ・デッキDSの場合 ▼



3-6-4 点検口取付けアングルの面取り

1: 点検口取付アングルの切断面の周囲を0.3mm以上の面取りしてください。



3 床板の施工

3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-5 A部へ取付ける場合 ※木彫・デッキDCの上止め部はインナー材が必要です(P.19参照)。

⚠ 注意

- 必ず端部の点検口が取り付く側から床板を張ってください。反対側の端部の床板を固定できなくなります。

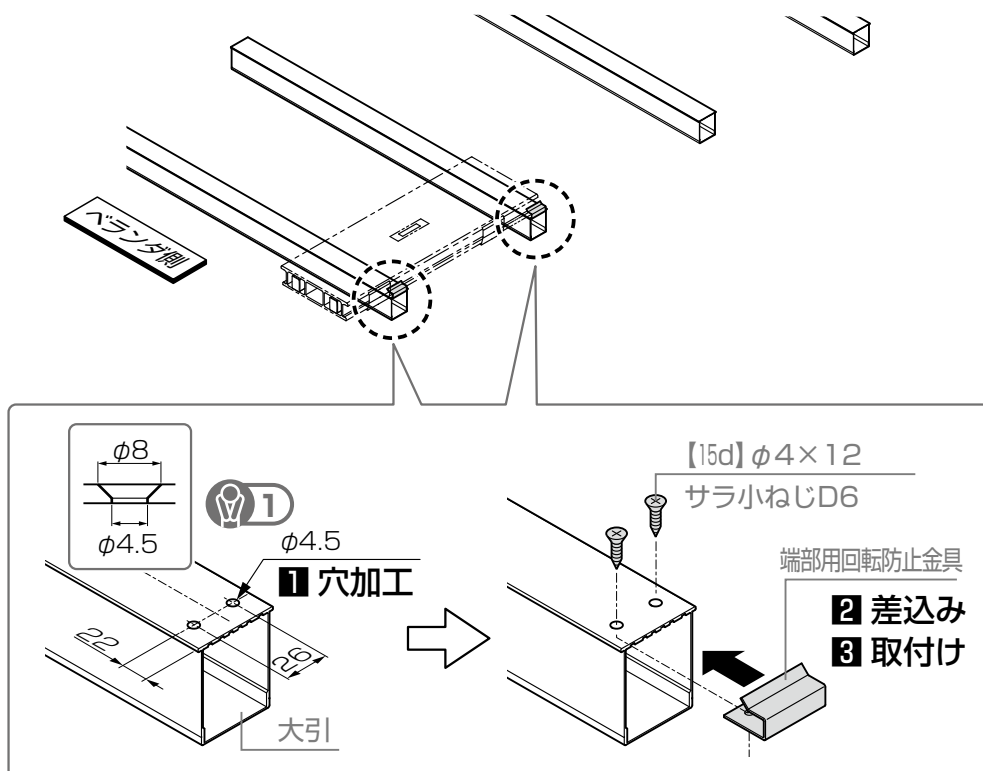
①:大引にφ4.5の貫通穴加工

💡 お願い 1

- 大引上面のφ4.5穴にφ8のサラ取り加工をしてください。

②:端部用回転防止金具下部を大引のホロー内に差込み

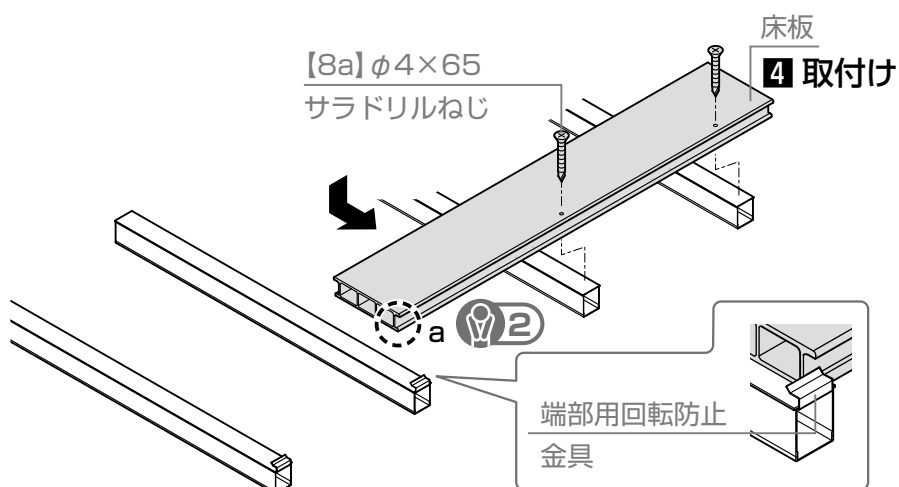
③:端部用回転防止金具下部を【15d】で取付け



④:点検口の隣の床板を【8a】で取付け

💡 お願い 2

- a部は端部用回転防止金具にはめ込んでください。



⑤:床板固定金具を【6a】で取付け

💡 お願い 3

- b部の床板固定金具は床面と面一にしてください。

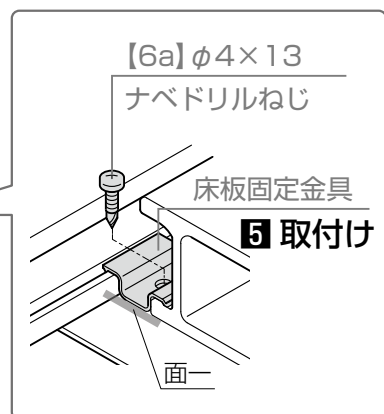
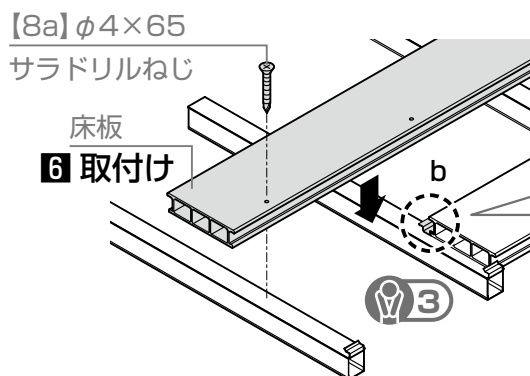
⑥:点検口の次の列の床板を取付け

💡 お願い

- ベランダ先端側は【8a】で固定してください。

⚠ 注意

- 電動ドライバー等での締め付け過ぎに注意してください。締め込み過ぎると床板が割れるおそれがあります。



3 床板の施工

3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-5 A部へ取付ける場合 ※木彫・デッキDCの上止め部はインナー材が必要です(P.19参照)。 つづき

7: 点検口を取付け

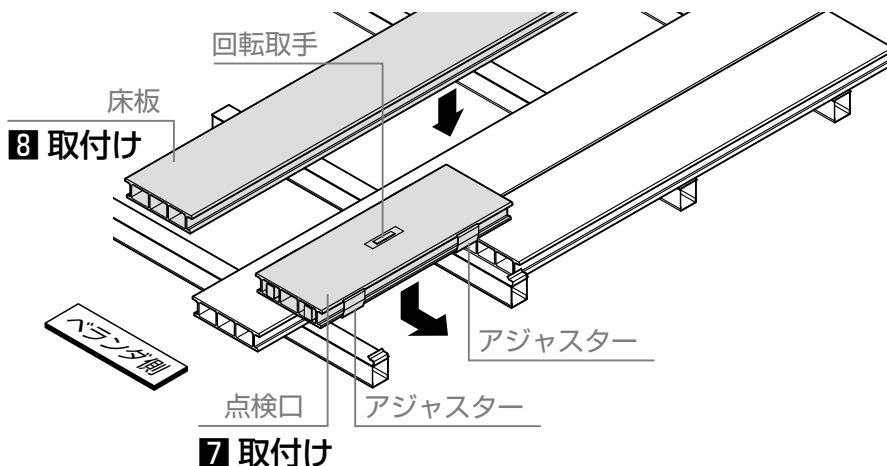
お願い

- ガタツキがある場合は、アジャスターを調整してガタツキを無くしてください。

8: 次の列の床板を取付け

お願い

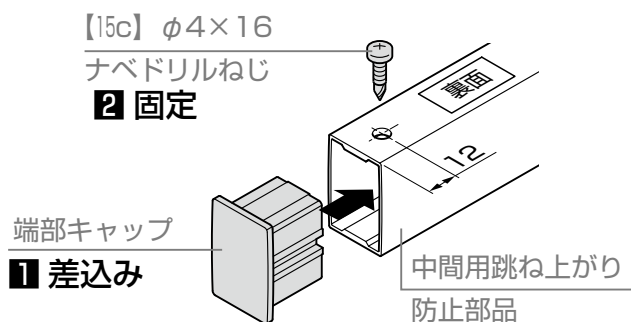
- 回転取手の養生テープは施工終了時まではがさないでください。



3-6-6 B部へ取付ける場合

1: 中間用回転防止部材キャップを
中間用回転防止部品に差込み

2: 中間用回転防止部材キャップを
中間用回転防止部材の裏面から
【15c】で固定

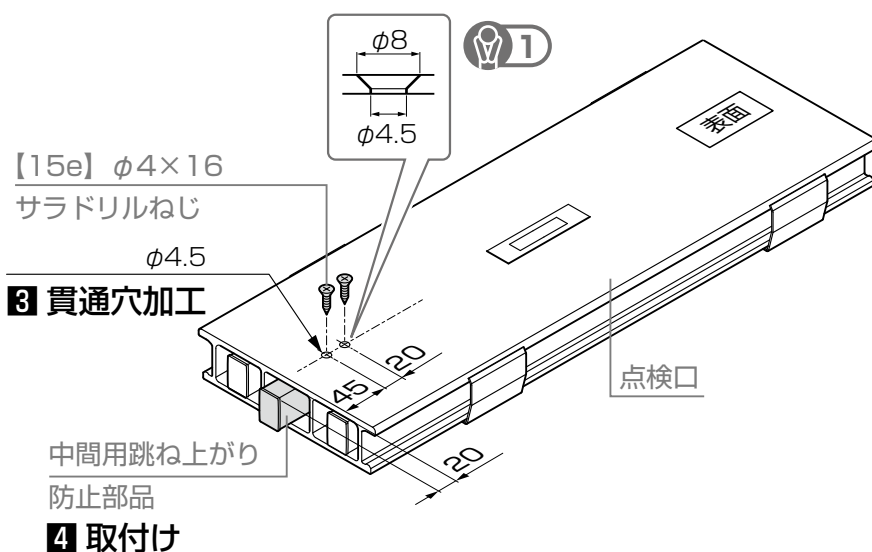


3: 点検口にφ4.5の貫通穴加工

お願い 1

- 大引上面のφ4.5貫通穴にφ8のサラ取り加工をしてください。

4: 中間用回転防止部材を【15e】で
取付け



3 床板の施工

3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-6 B部へ取付ける場合 ※木彫・デッキDCの上止め部はインナー材が必要です(P.19参照)。 つづき

5: 点検口に隣接する床板を取付け

お願い 1

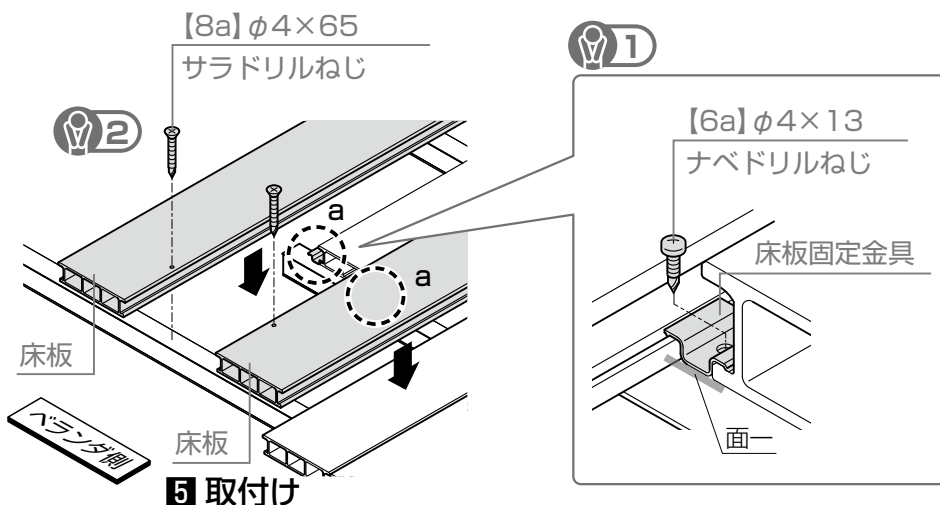
- a部の床板固定金具は床面と面一にして【6a】で固定してください。

お願い 2

- ベランダ先端側は【8a】で固定してください。

注意

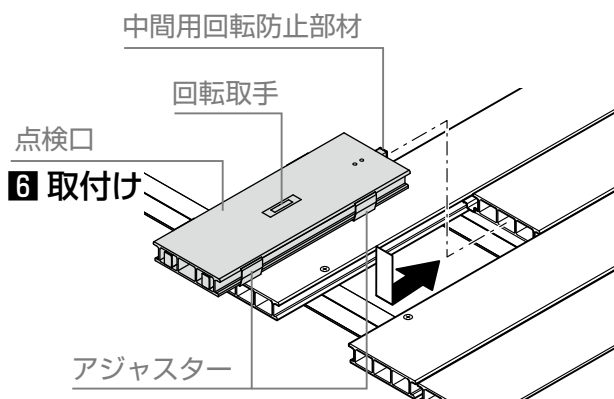
- 電動ドライバー等での締め付け過ぎに注意してください。締め込み過ぎると床板が割れるおそれがあります。



6: 点検口を取付け

お願い

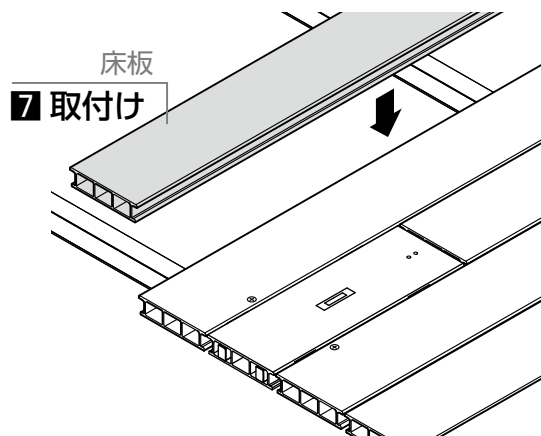
- 中間用回転防止部材を隣の床板のホロー内に差し込みながら取付けてください。
- ガタツキがある場合は、アジャスターを調整してガタツキを無くしてください。



7: 次の列の床板を取付け

お願い

- 回転取手の養生テープは施工終了時まではがさないでください。



3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-7 C部へ取付ける場合 ※木彫・デッキDCの上止め部はインナー材が必要です(P.19参照)。

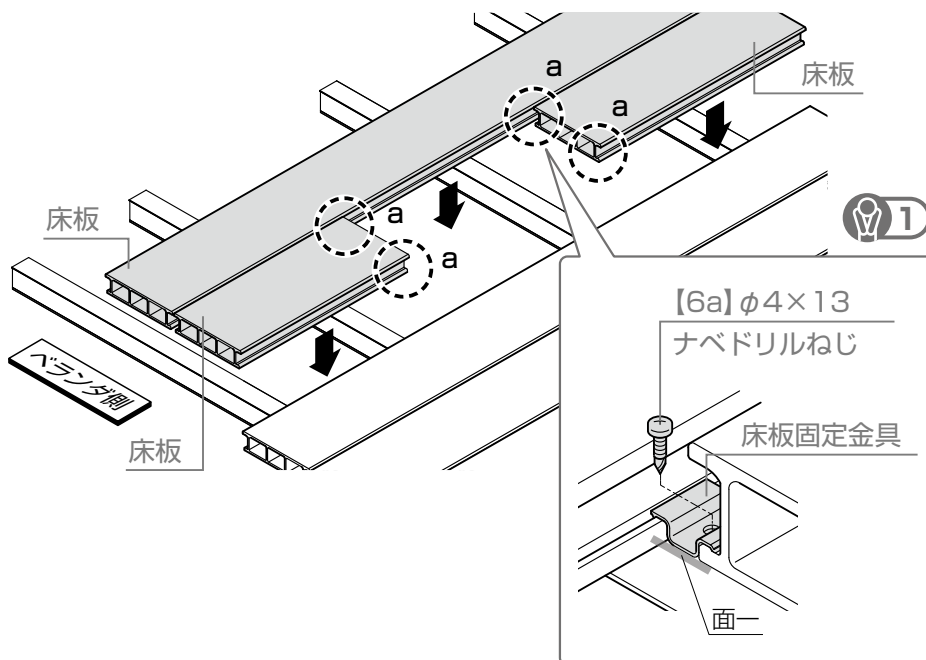
1: 点検口に隣接する床板を取付け

お願い 1

- a部の床板固定金具は床面と面一にして【6a】で固定してください。

注意

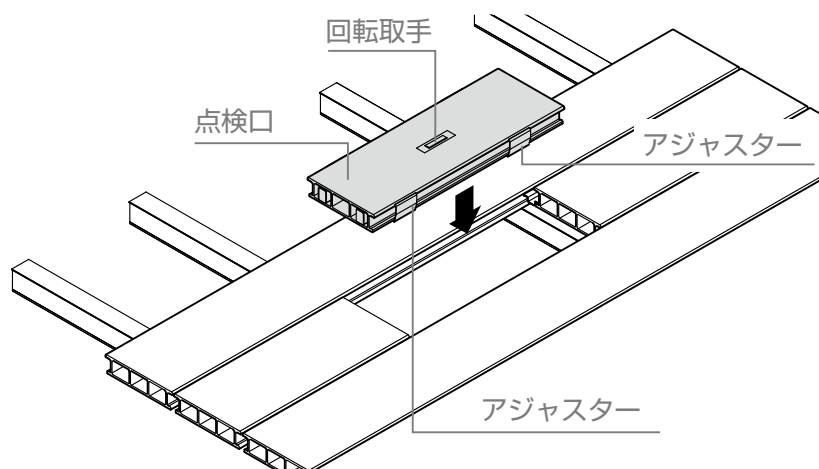
- 電動ドライバー等での締め付け過ぎに注意してください。締め込み過ぎると床板が割れるおそれがあります。



2: 点検口を取付け

お願い

- ガタツキがある場合は、アジャスターを調整してガタツキを無くしてください。
- 回転取手の養生テープは施工終了時まではがさないでください。



3 床板の施工

3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-8 D部へ取付ける場合 ※木彫・デッキDCの上止め部はインナー材が必要です(P.19参照)。

お願い

- 必ず端部の点検口が取り付く側から床板を張ってください。反対側の端部の床板を固定できなくなります。

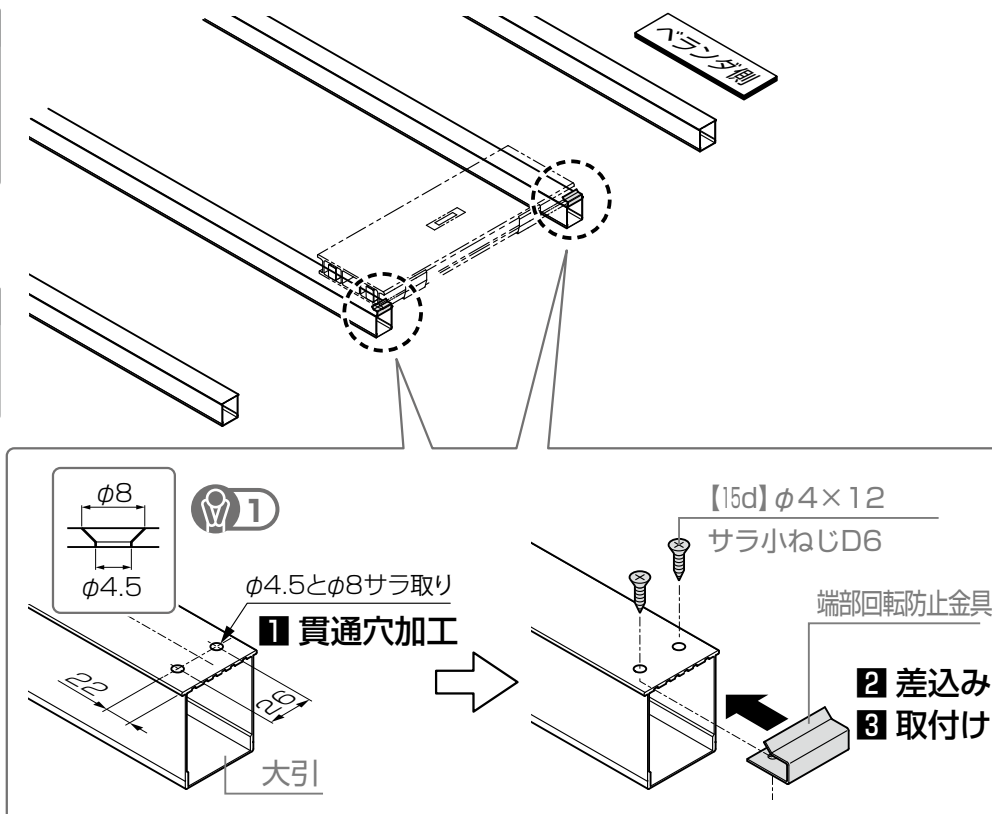
1: 大引にφ4.5の貫通穴加工

お願い 1

- 大引上面のφ4.5貫通穴にφ8のサラ取り加工をしてください。

2: 端部回転防止金具下部を大引のホー内に入込み

3: 端部回転防止金具下部を【15d】で取付け



4: 点検口の隣の床板を【8a】で取付け

お願い 2

- a部は端部回転防止金具にはめ込んでください。

5: 床板固定金具を【6a】で取付け

お願い 3

- b部の床板固定金具は床面と面一にしてください。

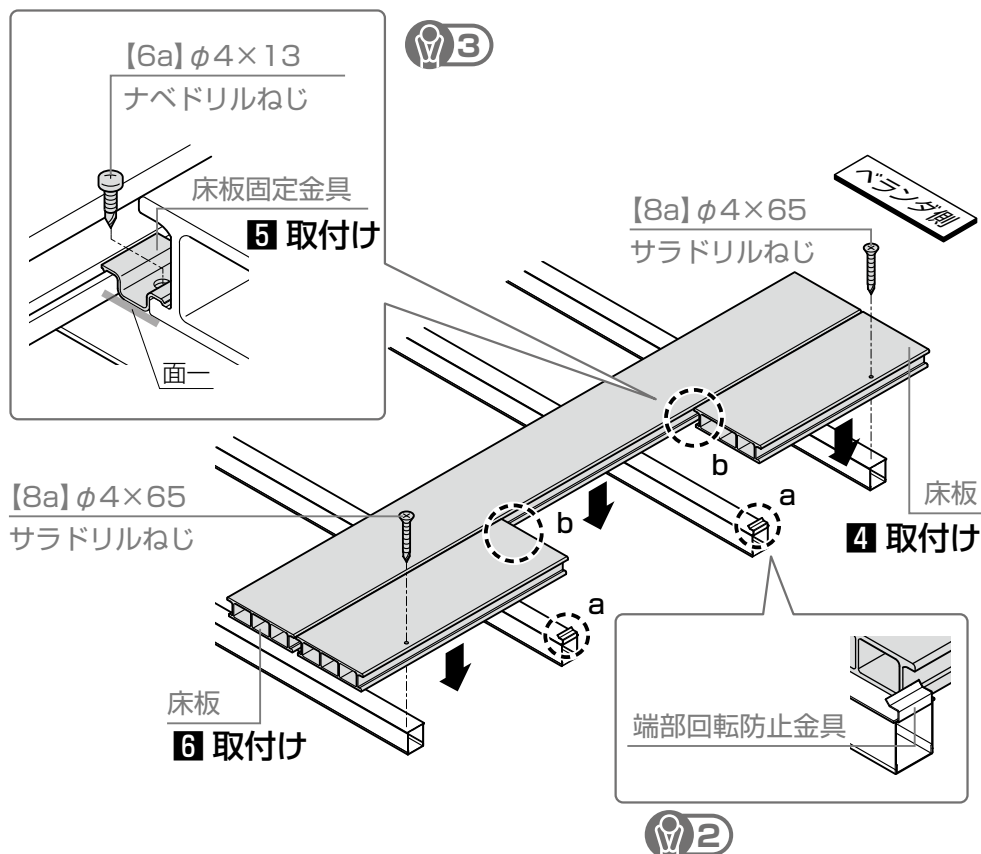
6: 点検口の次の列の床板を取付け

お願い

- ベランダ先端側は【8a】で固定してください。

注意

- 電動ドライバー等での締め付け過ぎに注意してください。締め込み過ぎると床板が割れるおそれがあります。



3 床板の施工

3-6 点検口の取付け **オプション** ※点検口の取付位置により、施工方法が異なります。

3-6-8 D部へ取付ける場合 ※木彫・デッキDCの上止め部はインナー材が必要です(P.19参照)。

7: 点検口を取付け

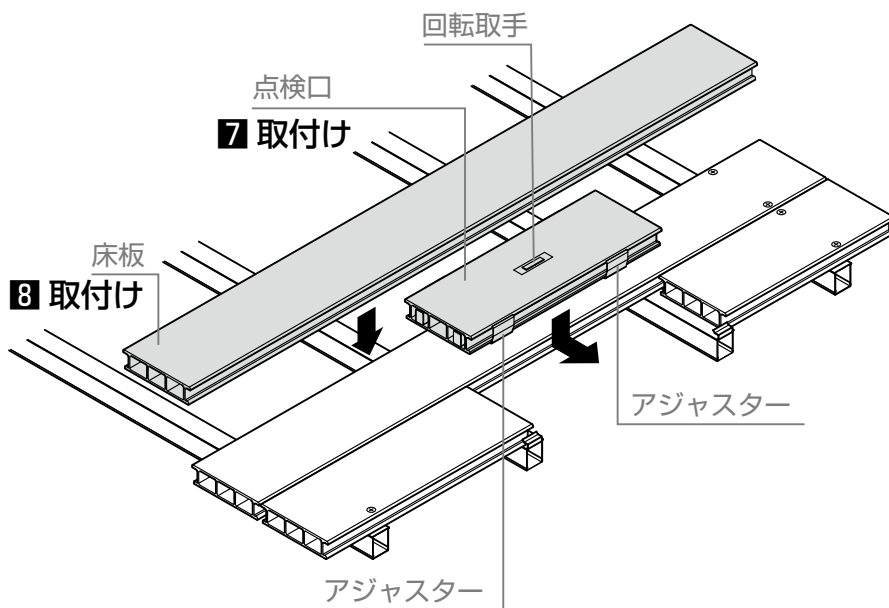
お願い

- ガタツキがある場合は、アジャスターを調整してガタツキを無くしてください。

8: 次の列の床板を取付け

お願い

- 回転取手の養生テープは施工終了時まではがさないでください。

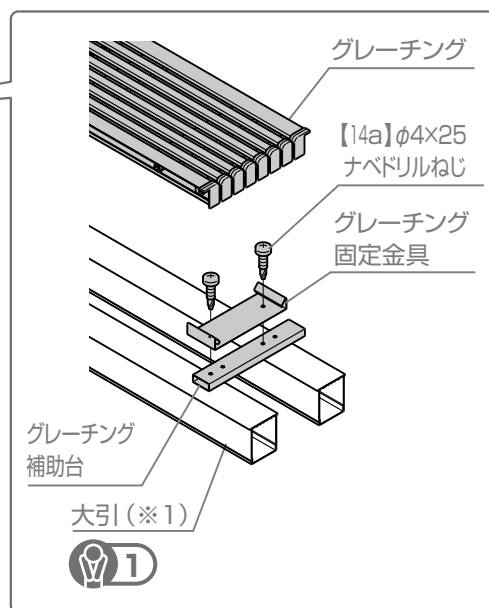
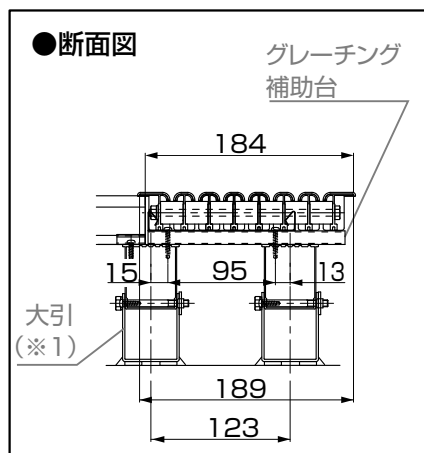
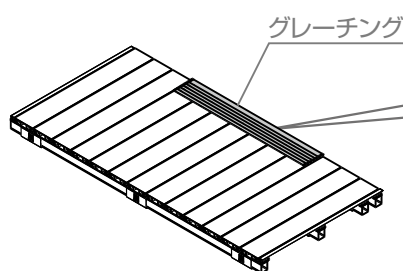


3-7 グレーチングの取付け **オプション** ※注意) グレーチングは横貼り納まりに対応しておりません。

1: グレーチング固定金具とグレーチング補助台を大引に【14a】で取付け

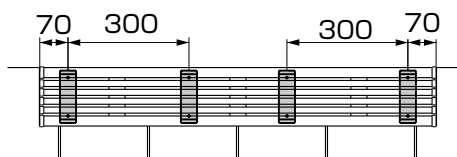
お願い 1

- 床板縦張りの場合は、グレーチング専用大引(※1)を追加設置してください。

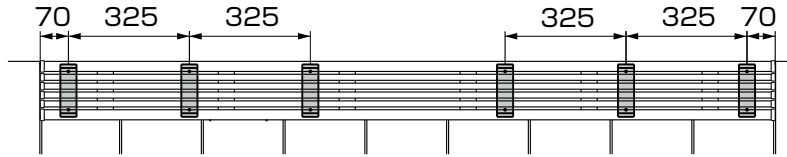


2: グレーチングを取付け

●グレーチング固定金具取付け位置



▲ L=900の場合 ▲

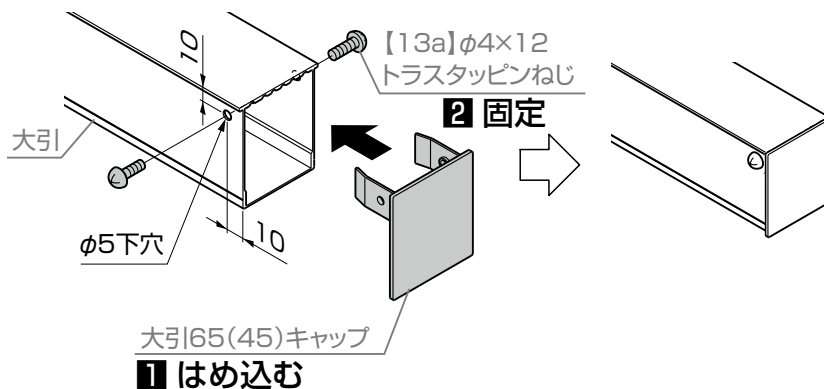


▲ L=1800の場合 ▲

3 床板の施工

3-8 大引キャップの取付け **オプション**

- ❶: 大引キャップを大引にはめ込む
- ❷: 大引キャップを大引に【13a】で取付け



3

床板の施工

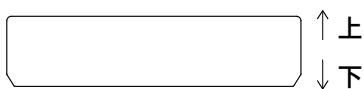
3-9 床板キャップの取付け **オプション**

3-9-1 柾目・プレーンタイプ・デッキDSの場合

- ❶: 床板キャップを床板にはめ込む

補足

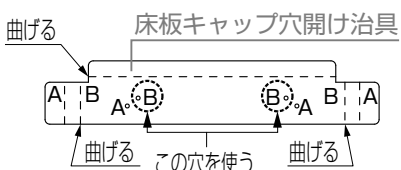
- 床板キャップには上下があります。



- ❷: 床板裏面に穴開け治具をあててφ3.5の貫通穴加工

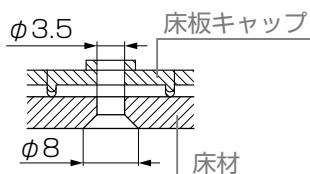
補足

- 床板キャップ穴開け治具は、Bの線で折り曲げ、Bの穴を使用して加工をしてください。



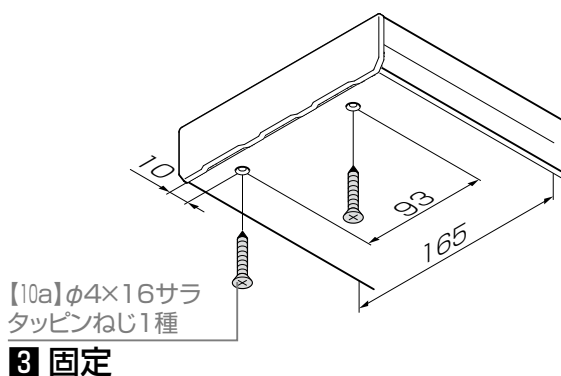
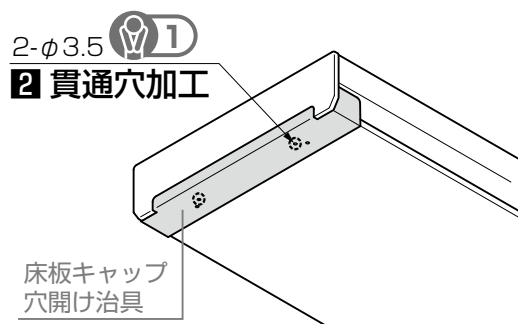
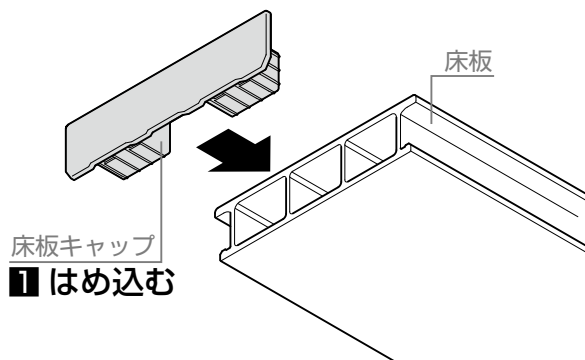
お願い 1

- φ3.5貫通穴にφ8サラ取り加工をしてください。



- 加工の際は、床板キャップが動かないように手で押さえながら加工してください。

- ❸: 床板キャップを床板に【10a】で固定



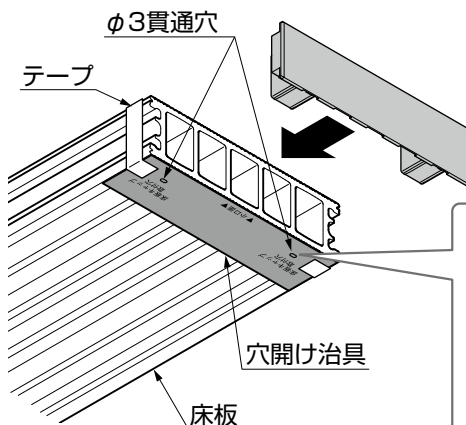
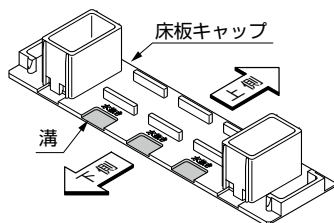
3-9 床板キャップの取付け **オプション**

3-9-2 木彫タイプの場合

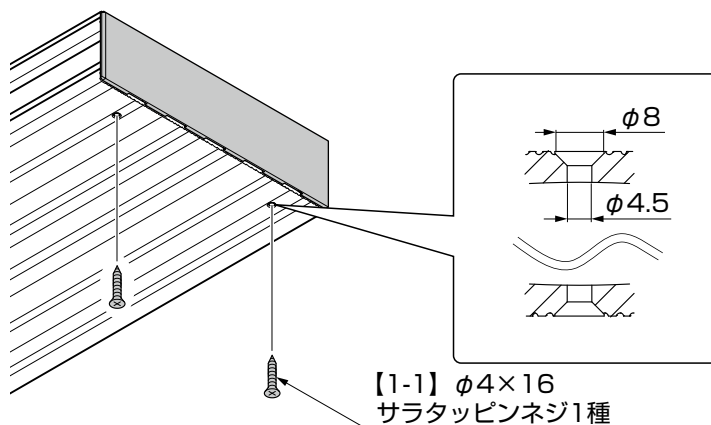
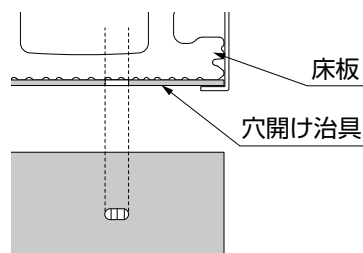
- 1: 床板に床板キャップをはめ込む
- 2: 穴開け治具を床板端部側面に合わせ、テープなどで仮固定する。
- 3: 穴開け治具を使用し床板の溝になっている部分に下穴φ3の貫通穴をあける。
- 4: 床板にφ4.5、φ8サラ取り加工 (4ヶ所)
- 5: 床板キャップを【1-1】で固定

補 足

- 床板キャップには上下があります。溝のある方を下にしてください。



- 床板の溝になっている部分に下穴φ3の貫通穴をあけてください。



3-9-3 デッキDCの場合

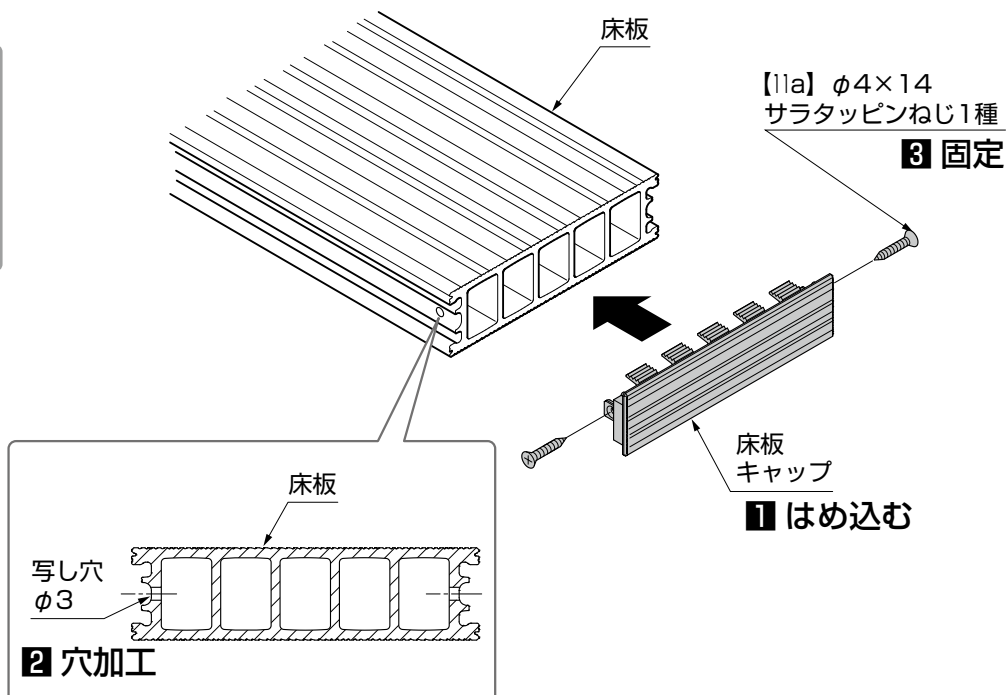
- 1: 床板キャップを床板にはめ込む

補 足

- 床板キャップには上下があります。



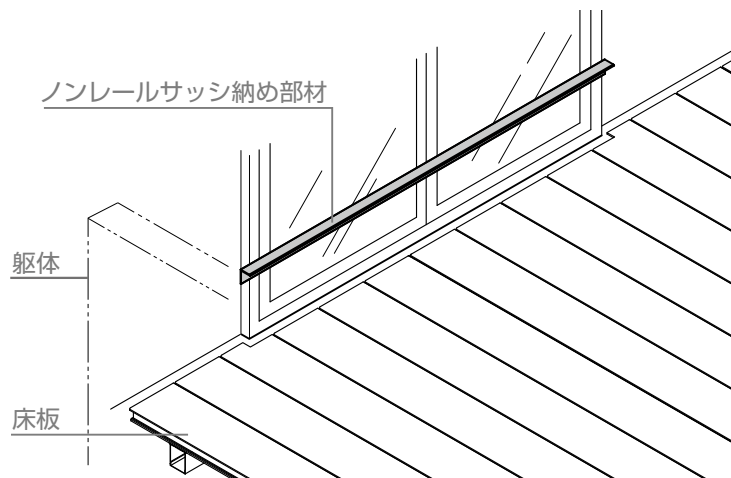
- 2: 床板キャップの穴に合わせてφ3の穴加工
- 3: 床板キャップを床板に【11a】で固定



3-10 ノンレールサッシ納め部材の取付け オプション

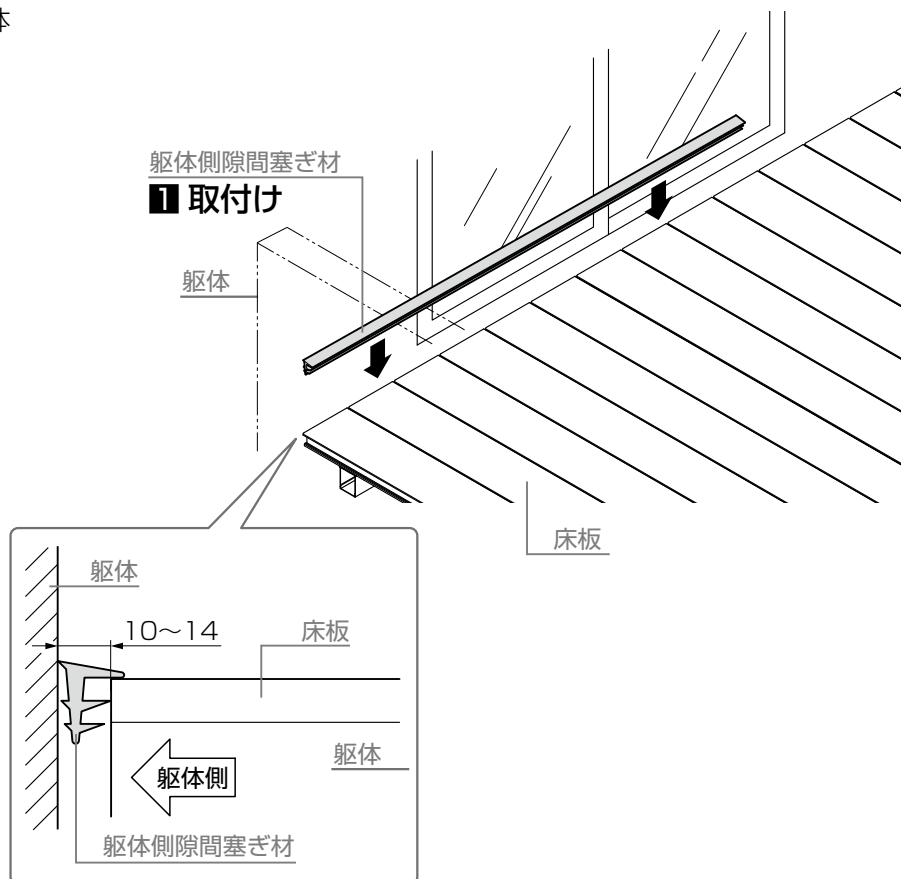
※図は縦張りを示します。横張りも同様の施工となります。

※詳細は「人工木デッキ ノンレールサッシ納め部材 取付説明書」(E346)を参照してください。



3-11 躯体側隙間塞ぎ材の施工 オプション

1: 躯体側隙間塞ぎ材を床板と躯体の間に押し込んで取付け



4 施工後の補修

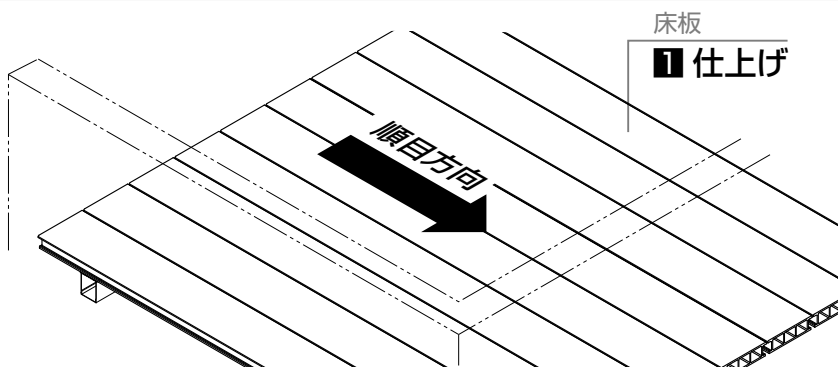
4-1 床板の補修

4-1-1 樹ら楽 木彫・プレーンタイプ・デッキDCの場合

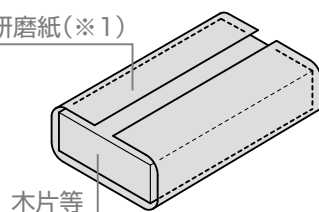
❶ 施工後、床板の表面に付いたすりキズは補修用研磨紙で仕上げてください。

お願い

- 補修用研磨紙は長手の順目方向にこすってください。
- 強くこすりすぎないでください。下地が出てしまうおそれがあります。
- 1ヶ所を集中的にこするのではなく、全体をぼかす感じでこすって磨いてください。
- 木片等の平らな部材を研磨紙の裏から補助的に添えて、研磨紙面をフラットに当てるようにしてください。(※1)



補修用研磨紙(※1)



補足

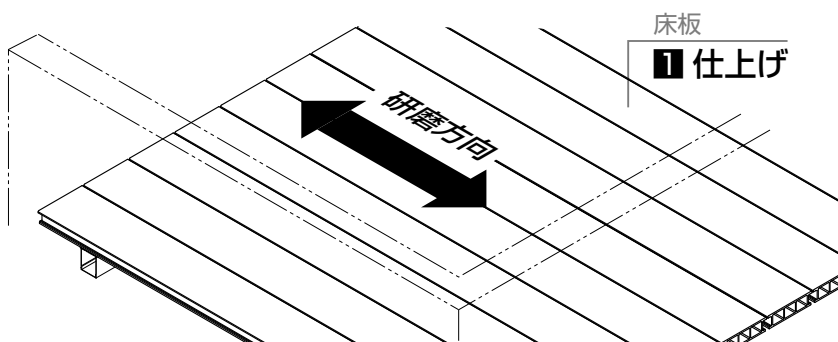
- 市販の研磨紙を使用する場合は、80番の研磨紙を使用してください。

4-1-2 デッキDSの場合

❶ 施工後、床板の表面に付いたすりキズは、市販のナイロン不織布(#60)で仕上げてください。(例:3M社製スコッチブライト)

お願い

- 補修の際には、図の研磨方向にこすってください。
- 強くこすりすぎないでください。下地が出てしまうおそれがあります。
- 1ヶ所を集中的にこするのではなく、全体をぼかす感じで磨いてください。

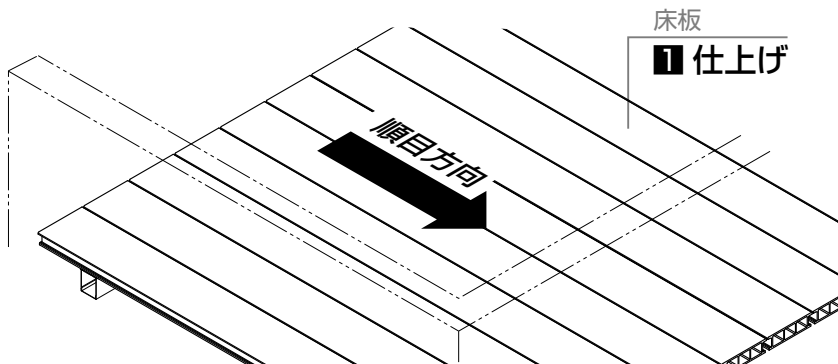


4-1-3 柃目の場合

❶ 施工後、表面に付いたすりキズの補修は、柄付きステンレスブラシで仕上げてください。

お願い

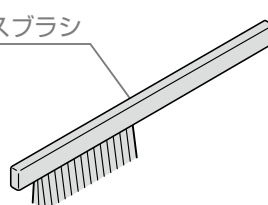
- 柄付きステンレスブラシで長手方向に沿って一方向に軽くこすってください。
- 強くこすりすぎないでください。下地が出てしまうおそれがあります。
- 1ヶ所を集中的にこするのではなく、全体をぼかす感じでこすって磨いてください。



柄付きステンレスブラシ

補足

- 柄付きステンレスブラシは市販のものをお求めください。



梱包明細表

※A：樹ら楽 プレーンタイプ B：樹ら楽 木彫タイプ・デッキDC C：樹ら楽 柱目タイプ・デッキDS

【1】大引セット									
名 称	略 図	員 数							
		2本入り				3本入り			
		L750・L900 L1050	L1200・L1800 L1900	L2000 L2575	L3555	L750・L900 L1050	L1200・L1800 L1900	L2000 L2575	L3555
大引(H65・H45)		2	2	2	2	3	3	3	3
支持台(65・45)		4	6	8	10	6	9	12	15
【1a】M6×60六角ボルト		4	6	8	10	6	9	12	15
【1b】φ4×16ナベドリルねじ		8	12	16	20	12	18	24	30
【1c】スライドナット		4	6	8	10	6	9	12	15
M6平座金		4	6	8	10	6	9	12	15

【2】高さ調整部品セット				
名 称	略 図	員 数		
		5個入り	10個入り	
補助台 (40・20)		5	10	
【2a】φ4×16 ナベドリルねじ		21	43	
【2b】φ4×13 サラドリルねじ		10	21	

【3】大引連結部品セット				
名 称	略 図	員 数		
		2個入り	3個入り	
大引スリーブ		2	3	
【3c】φ4×16 ナベドリルねじ		17	26	

【4】床板セット (A用)				
名 称	略 図	員 数		
		1本入り	2本入り	3本入り
床板		1	2	3

【5】床板セット (B用)				
名 称	略 図	員 数		
		1本入り	2本入り	3本入り
床板		1	2	3

【6】床板取付部品セット (A用)				
名 称	略 図	員 数		
		基本	追加20	
横止め金具		40	20	
穴開け治具		1	—	
補修用研磨紙		1	—	
【6a】φ4×13 ナベドリルねじ		44	22	
取付説明書 〈E365〉	—	1	—	
取扱説明書 〈EXM122〉	—	1	—	

【7】床板取付部品セット (B用)				
名 称	略 図	員 数		
		基本	追加20	
横止め部品 (ドリルねじ組込済)		40	20	
穴開け治具		1	—	
補修用研磨紙		1	—	
取付説明書 〈E365〉	—	1	—	
取扱説明書 〈EXM122〉	—	1	—	

【8】床板取付部品セット (C用)				
名 称	略 図	員 数		
		基本	追加20	
横止め金具		40	20	
穴開け治具		1	—	
【6a】φ4×13 ナベドリルねじ		44	22	
取付説明書 〈E365〉	—	1	—	
取扱説明書 〈EXM122〉	—	1	—	

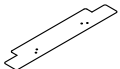
梱包明細表

※A：樹ら楽 プレენტタイプ B：樹ら楽 木彫タイプ・デッキDC C：樹ら楽 柱目タイプ・デッキDS

【9】上止めねじセット		
名 称	略 図	員 数
【8a】φ4×65サラドリルねじ		20

【10】床板取付け部品セット（端部用）					
名 称	略 図	員 数			
		4個入り	6個入り	8個入り	10個入り
床板取付け金具（端部用）		4	6	8	10
【10a】φ4×16ナベドリルねじ		4	6	8	10

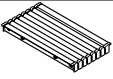
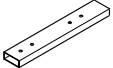
【11】床板キャップ（樹ら楽木彫タイプ用）				オプション	
名 称	略 図	員 数			
		2個入り	10個入り		
床板キャップ		2	10		
穴開け治具		1	1		
【11a】φ4×16サラタツピンねじ1種		4	20		

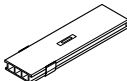
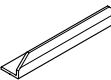
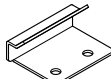
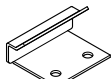
【12】床板キャップ（A・C用）				オプション	
名 称	略 図	員 数			
		2個入り	10個入り		
床板キャップ		2	10		
床板キャップ穴開け治具		1	1		
【12a】φ4×16サラタツピンねじ1種		4	20		

【13】床板キャップ（DC用）				オプション	
名 称	略 図	員 数			
		2個入り	10個入り		
床板キャップ		2	10		
【13a】φ4×14サラタツピンねじ1種		4	20		

【14】幅調整材セット							オプション	
名 称	略 図	員 数						
		L900	L1200	L1500	L1800	L2100		
すき間調整材		2	2	2	2	2		
調整材受け金具		2	2	2	2	2		
【14a】φ4×25ナベドリルねじ		6	8	8	8	10		

【15】大引キャップセット			オプション	
名 称	略 図	員 数		
大引キャップ		1		
【15a】φ4×12トラスタツピンねじ3種		4		

【16】グレーチングセット			オプション	
名 称	略 図	員 数		
		L900	L1800	
グレーチング		1	1	
グレーチング固定金具		4	6	
グレーチング補助台		4	6	
【16a】φ4×25ナベドリルねじ		8	13	

オプション			
名 称	略 図	員 数	
		A・C	B
点検口		1	1
点検口取付アングル		1	1
端部用回転防止金具A		2	—
端部用回転防止金具B		—	2
中間用回転防止部材		1	1
中間用回転防止部材キャップ		1	1
点検口・収納蓋用アジャスター		2	2
【16a】φ4×16ナベドリルねじ（アジャスター取付用）		4	4
【16b】φ4×16ナベドリルねじ（点検口取付アングル固定用）		2	2
【16c】φ4×16ナベドリルねじ（中間用回転防止部材キャップ取付用）		1	1
【16d】φ4×12サラ小ねじD6（端部用回転防止金具取付用）		4	4
【16e】φ4×16サラドリルねじ（中間用回転防止部材取付用）		2	2

オプション		
名 称	略 図	員 数
躯体側隙間塞ぎ材		1

オプション		
名 称	略 図	員 数
床板縦切りインナー材		1
【18a】φ4×16サラドリルねじ		4

メモ

This image shows a full page of white paper with horizontal dotted lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting practice. There are no margins, text, or other markings on the page.

メモ

This image shows a full page of white paper with horizontal dotted lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting practice. There are no margins, text, or other markings on the page.

取説コード

E365

JZZ626092E
201912A_1049
202607F_1100